

目次

- 佐渡政友倶楽部の会合 [十一年一月六日] 02
- 山本悌二郎の帰朝 [十一年一月十七日] 02
- 佐渡政友倶楽部の幹部会 [十一年十二月七日] 03
- 最終の佐渡郡会 [十一年二月] 03
- 佐渡郡会の鉄道敷設意見書 [十一年二月二十一日] 03
- 三度鉄道敷設速成の請願 [十一年二月二十三日] 04
- 郡憲政派に対する新聞記事 [十一年三月十四日] 05
- 佐渡政友倶楽部の春期総會 [十一年四月十八日] 05
- 政友會分裂の兆見 [十一年五月三日] 05
- 元田、中橋等の除名 [十一年六月六日] 06
- 第二十一次加藤内閣成立した [十一年六月十二日] 06
- 鉄道請願に関する諸経費 [十一年七月十九日] 06
- 佐渡政友倶楽部の會合 [十一年九月十七日・二十三日・十月二十一日] 07
- 高等女学校の移転問題 [十一年十二月二日] 08
- 本郡路線の縣道編入 [十一年十二月] 09
- 縣立相川高等女学校の改称 [十二年五月四日] 10
- 市橋藤蔵の死去 [十二年七月二十五日] 10
- 山本悌二郎の帰省 [十二年七月二十七日] 10
- 佐渡政友倶楽部秋期大会 [十二年八月二日] 11
- 南海春洲等の政談演説會 [十二年八月二十五日] 11
- 佐渡実農倶楽部 [十二年八月一日] 11
- 第二十二次山本（第二次）内閣成立 [十二年九月二日] 12
- 山本再び予算委員長となる [十二年九月] 12
- 第十九回新潟縣會議員選挙 [十二年九月二十五日] 12
- 葛西肇の除名 [十二年九月二十九日] 15
- 小作聯合會 [十二年十月十日] 15
- 政友會新潟縣支部大会 [十二年十月十七日] 16
- 阪口仁一郎の死去 [十二年十一月二日] 16
- 佐渡実農倶楽部幹部會 [十二年十一月五日] 16
- 小作綜合會の秋期大会 [十二年十一月十三日] 17
- 須貝快天の政談演説會 [十二年十一月十五日] 17
- 第二十三次清浦内閣成立 [十三年一月七日] 18
- 政友本党の組織 [十三年一月十六日] 18
- 新潟政友會支部大会 [十三年一月二十三日] 18
- 新政党所属の有志會 [十三年一月二十三日] 18
- 第四十九期議會解散 [十三年一月三十一日] 19
- 小作労働組合の會合 [十三年二月七日] 19
- 佐渡政友倶楽部臨時大会 [十三年二月八日] 19

- 政友本党新潟支部発会式 [十三年二月十七日] 20
- 中正倶楽部の結党式 [十三年三月二日] 21
- 第十五回総選挙 [十三年五月十日] 21
- 新潟護憲団の演説会 [十三年三月二十六日] 23
- 塚本派の演説会 [十三年四月三十日] 23
- 第二十四次加藤（第一次）内閣成立 [十三年六月十一日] 25
- 新潟三派護憲祝賀会 [十三年六月十八日] 26
- 佐渡護憲派の會合 [十三年七月二日] 26
- 山本代議士の帰省 [十三年九月七日] 26
- 政友倶楽部の大会 [十三年九月九日] 26
- 農政革新会の總會 [十三年九月十日] 27
- 尾崎行雄 来郡 [十三年九月十日～十五日] 27
- 立憲青年党の結党式 [十三年九月十二日] 27
- 政友本党の遊説 [十三年十月二日] 29
- 佐渡実農倶楽部の秋期總會 [十三年十月四日] 29
- 河原田高等女学校の移転惜別会 [十三年十月四日] 29
- 河原田高等女学校の移転祝賀会 [十三年十月十二日] 29

佐渡政党史稿、大正政党史之卷、第三号

自大正十一年、至大正十三年

●佐渡政友倶楽部の會合 [十一年一月六日]

佐渡政友倶楽部にては郡制廃止に伴ひ最終の郡会と目する、十一年度の通常郡会に関し善後策を講ずるため 十一年一月六日河原田町の遊景楼に郡會議員及幹部の協議会を開きしに出席者四十余名 本間一松開会の辞を述べ次で高野宏策より昨年末通常県会の経過を詳細に報告したる後、郡問題に対する協議を為し、郡當局の意見を聞きたる上更に協議会を開くこと、して交渉委員に本間一松、齋藤長三、村岡幸蔵、河原治一、水谷松次、高野宏策の七人を挙げ最後に本年を以て郡なる自治体は解散さるゝに付最終記念として全郡共進会を開催することを申合はせたる上酒宴に移り杯盤の間快談数刻に及び散会した

●山本悌二郎の帰朝 [十一年一月十七日]

政友会の代表として華盛頓會議へ出張中なりし山本悌二郎は其任務を終へ川原茂輔、林毅陸の二人と共に十一年一月六日加奈陀太平洋汽船会社のエムプレス、オブ、ロシア号に乗船し同十七日午前六時横浜へ入港し政友会を代表して出迎への熊谷直太、河上哲太の両幹事と握手を交換した其時の山本の談話は

華盛頓會議に於て此処まで漕付けるには紆余曲折があつて全権の苦勞は一通りでない一つ一つに依て見るならば人間の行ふ事であるから非難さるゝ点もあらうが大局から見て局外者から公平に判断したなら

ば日本の将来に好結果を齎したものである 主力軍艦比例に於て十、十、七から十、十、六に譲歩したのは失敗であるといふも此結果米国が比利賓、ガム等の防備を現状維持としたのではないか、寧ろ此れなどは日本の大成功である、之れに対する米国の輿論などは非常に騒いでいた、若しも米国の富力を以て比利賓、ガムに要害を建造されたならば如何か、大艦隊を有するとするも甚だ心もとない、自分等が米国に滞在中最も快心に堪えないのは日本は本会議に於て世界三大強国となつた事である

巴里議会には五なり華盛頓会議では三大強国となつたのである、列国及米国の通信では日本に関するものが最も多かつた 斯くて華盛頓会議の結果日本の地位は一層高められたのだから国民は緊揮一番此地位を確保発展するに努力せねばならぬ云々

●佐渡政友倶楽部の幹部会 [十一年十二月七日]

十一年十二月七日政友倶楽部にては河原田山六旅館に幹部会を開き 郡参事会を了へて八日より開かるゝ郡会へ附議の大正十一年度歳入歳出予算其他重要問題に関する対応策の協議を為した

●最終の佐渡郡会 [十一年二月]

十一年二月の通常郡会は郡制廃止に伴ふ最終の郡会なれば政党の競争最も烈しく中にも各議員のお土産建議に就ては殊に甚しく議員の色別は政友会十四名に憲政会十一名なるを以て政友会の提案せる建議書は十二通之を一括して一跳千里の勢ひを以て通過せるに反し憲政会の建議書は僅か四通なるに其内二通は已に政友会にて建議して決議せるものと同一なればとて撤回せしめ又一通の

「赤泊寺泊の航路を小木へ延長に関する意見書」

は満場一致の通過となして残る一通の

「松ヶ崎相川県道の認定に関する意見書 (内容は畑野より安國寺を経て金丸の南部落を落合橋に至り八幡神社の前に出づるもの)」

此れは前に政友会より建議して可決したる

畑野線県道編入に関する意見書 (内容は畑野より安國寺を経て小倉川の北岸に沿ひて金丸に至り落合橋より八幡神社の前に出づるもの)

とは些細の相違にて略同一のものなればとて憲政会のソレは否決したが此建議書の一は安國寺より従前の通り下畑にて織橋を渡り小倉川の南岸を金丸の南部落に入りて落合橋に出づるのと、他は安國寺より織橋を渡らず下畑より小倉川の北岸に沿ふて金丸の北部落を通過し落合橋に至る、との金丸の南北両部落の争ひで之れが今期議会の呼びものであつたが多勢に無勢、遂に政友会の勝ちとなつた

●佐渡郡会の鉄道敷設意見書 [十一年二月二十一日]

十一年二月の佐渡通常郡会は佐渡鉄道敷設速成に関する意見書を決議し議長羽生甚右衛門より内務大臣床次竹二郎へ提出した

佐渡輕便鉄道敷設速成ニ関スル意見書

- 一、新潟縣佐渡郡両津町ヲ基点トシ新穂、畑野、真野、河原田、二見ノ各町村ヲ経テ相川町ニ至ル、及両津町ヲ基点トシ吉井、金沢、河原田ヲ経テ前記 河原田、真野間ノ線を重用シ西三川、羽茂、羽茂村ヲ経テ小木町ニ至ル鉄道

本鉄道ハ佐渡國ノ中枢部ヲ貫通スルモノニシテ越後航路ノ枢要港ニ連絡シ其沿線ニ於ケル農産林祭工産鉱物等ノ産出ヲ促シ地方富源ノ開發ニ將タ文化ノ向上ニ資スル至大ナル而巳ナラズ本郡ノ如キ特殊ナル史蹟名勝靈場ニ富メルアリ為メニ汎ク郡外人ヲ吸収シ其經營上利スル処アルノミナラズ延テハ国民思想

ノ善導ニ裨益スル盡シ僅少ナラズト信ズ寔ニ緊要ナル線路ナリトス故ヲ以テ去ル大正三年郡内有志相謀リ株式会社ヲ創設シ先ヅ兩津町ヲ基点トシ相川町ニ至ル二十五哩間ヲ第一期工事トシ輕便鐵道敷設ヲ企テ其筋ニ申請セシモ偶々經濟界ノ變調ト金融不振ノ悲境ニ遭遇シ遂ニ中止ノ止ムナキニ至レリ然レドモ時運ノ進展ハ人口ハ年毎ニ増殖シ物産ハ愈々擴大シ郡外ヨリノ參拜觀光ノ客ハ年ト共ニ増加シ其數實ニ六萬以上ヲ算ユルニ至ル 洵ニ交通機關ノ整備ハ焦眉ノ一大急務ニシテ地方振興ノ根本ナリトス翻テ顧フニ聖代ノ今日鐵路ノ敷設頗ル普及セシニ拘ラズ独リ本郡ニ敷設ヲ見ザルハ郡民ノ齊シク遺憾トスル処ナリ

冀クハ閣下本郡十二萬民衆ノ苦哀ヲ明鑑セラレ前陳ノ区域間ニ速ニ國有輕便鐵道ヲ敷設サレンコトヲ右本会ノ決議ニ依リ意見書及提出候也

大正十一年十二月二十一日

佐渡郡會議長 羽生甚左衛門

内務大臣床次竹二郎

●三度 鐵道敷設速成の請願 [十一年二月二十三日]

中川十左衛門は十一年度に於て佐渡鐵道敷設速成の請願を為さんとして第四十五議會の休会明けの十一年二月二十三日に請願書を携へ上京せしに政府は第四十四議會へ提出せし鐵道敷設法改正案と内容の少しも変らざる則ち佐渡鐵道を予定線と為しある法案を提出して衆議院は二月七日を以て之を可決し貴族院へ回付せし後なりければ請願書は直ちに貴衆兩院へ捧呈せるも該法案の貴族院へ上程せらるゝは三月下旬なるべしとの事につき万事を同盟会の中央委員に委託して三月五日京地出發歸縣せるが該法案は二十二日を以て貴族院に於て可決確定した、兩院へ提出した請願書は左の通りである

佐渡鐵道敷設速成請願書

一、新潟縣佐渡郡兩津港ヲ起点トシ真野村ヲ經テ相川町ニ至ル約十二哩間及真野村ヨリ分岐シ西三川村ヲ經テ小木港ニ至ル約十三哩間

大正十年二月二日 本郡有志四百二十七名連署ヲ以テ事情ヲ具シ標記佐渡鐵道敷設速成ノ儀ニ付請願仕候処今以テ之レガ實現ヲ見ザルハ郡民ノ深ク遺憾トスル処ニ御座候

抑モ交通機關ノ整備ト運輸機能ノ發揮ハ富力ノ増進産業ノ進歩ニ至大ノ關係ヲ有シ鐵道ノ普及ガ文化ノ先驅トナリ地方開發ノ使命ヲ帶ブルハ論ヲ待タデ而シテ交通機關ノ完備ハ海陸ノ連絡ヲ円滑ニスル眼目トス 本郡ハ日本海中ニ位スル島國ニシテ新潟港ヲ距ル三十二哩直江津港ヲ距ルコト三十二哩ニアリ物産豊富ニシテ人口稠密古來北海道及本州關東關西ト來往通商シ明治維新以來開國ノ發展ニ伴ヒ愈々物貨ノ移動旅客ノ往來ヲ激増スルニ至ル

顧ミルニ本郡ハ海ニハ無尽ノ宝库 陸ニハ金鑛米穀林産畜産等其額三千萬圓ノ巨額ニ達スルノミナラズ畏クモ帝國ノ勤王思想ノ源泉トモ稱スベキ承久大乱ノ史跡タル真野御陵ノ靈地アリ 且又日本國體ノ開頭者タル日蓮聖人ノ遺跡アリ 土地風光明媚ニシテ名勝旧蹟多ク為メニ郡外ヨリ參拜觀光ノ旅客歳ヲ追フテ増加シ其數實ニ六萬ヲ算スルニ至ル此時ニ當リ十九世紀ノ遺物ト云フベキ人車馬車ニ依リ徒ラニ時間ト勞カトヲ空費シ多大ノ苦痛ヲ蒙リツヽアルハ聖代文明ノ國民トシテ洵ニ忍ビ難キ境遇ニアリ幸ニシテ第四十五議會ニ於テ政府ヨリ提出セシメタル鐵道敷設法改正案ニハ佐渡鐵道ノ線路ヲ加ヘラレタリ

閣下冀クハ十二萬民衆ノ哀情ヲ諒察シ裏日本ニ於ケル重要ナル位置ニ所在スル本郡ノ實態ニ明鑑ヲ垂シ該法案可決ノ上更ニ速ニ起工ノ方策ヲ樹立シ以テ焦眉ノ急ヲ救ハレムコト切望ノ至リニ堪ヘズ

右謹デ請願候也

大正十一年三月 日

新潟縣佐渡郡金沢町大字新穂

中山十左衛門

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長眞繁三郎殿 (各通)

●郡憲政派に対する新聞記事 [十一年三月十四日]

十一年三月十四日の「新佐渡」に左の記事があった

郡憲政俱樂部成らん

総務に野沢氏他四名、幹事長は浅香氏か

本郡憲政派は今日まで単に有志者の集合団体に過ぎなかつたが是迄は党の統一も出来難く活動上不便のこともあるので何時かは完全に組織せんと意向首領間に懷抱されて居た処今回の郡会々期中に此議次第に熟し愈々憲政俱樂部を組織することに大体衆議一決し目下幹部の詮衡中である、幹部の顔触れは未だ決定しないが大体左の諸氏の呼声が高い

総務、野沢卯市、本間和平、相田栄蔵、小田貫一、土屋六右衛門

幹事長、浅香寛

右幹部決定次第結党式を挙げて郡内に説明するであらう

右幹部詮衡の際 憲政派では郡実業界の勢力家として又憲政派の同情者として同派から囑目されて居る渡辺金左衛門氏の出馬を懇請し盛んに之を悠揚したが同氏は年来主張せる「政党政派に關係せず」との超然主義を固持して幹部となるを肯んぜず結局単なる同情者として同派のために尽すことゝなつた

●佐渡政友倶楽部の春期總會 [十一年四月十八日]

佐渡政友倶楽部にては十一年四月十八日午後四時より夷の巴屋に春期總會を開きしに出席者七十名幹事河原治一会務の報告を為して柴田繁をとして左の件々を決議し役員の改選を行ひ夫より懇親会を開いた

- 一、佐渡国有鉄道敷設に努力する事
- 一、佐渡の枢要港湾修築に努力する事
- 一、縣郡道の速成及郡道の縣移管に努力する事
- 一、郡内の中等教育整備向上に努力する事
- 一、両津水産分場擴張及完成に努力する事

●政友會分裂の兆見 [十一年五月三日]

政友會の非改造を標榜する本縣選出政友會代議士は高橋光威邸に會合協議を擬したる上、改造派たる山本悌二郎に改造派を退かれたき旨を申込みたるに山本の決心牢固として到底初志を翻すべくも見えざりしが十一年五月三日午前山本は考ふる時ありてか政友會新潟支部長を辞任申出でたれ共 周囲の勸説ありたるため留任することになった

原首相凶變後 高橋は清は其後を承けて総理大臣となりしが閣僚中種々の問題ありて野党及貴族院の攻撃烈しく一部閣僚の改造を為すか將た内閣総辭職を為すか、といふ処に追ひ詰められたので山本悌二郎は強硬なる改造論者にて高橋及田辺熊一等は非改造派であつたが之れが他日政友會 [分裂] の兆を示したのである

●元田、中橋等の除名 [十一年六月六日]

高橋首相は四囲の情勢より内閣を改造して面目を一新せんとの計画を立てしも鉄道大臣元田肇、文部大臣中橋徳五郎等の反対によりて頓挫を来せしが延びて政友会にも紛擾を来し改造、非改造 両派の軋轢疎隔は日に熾烈を加ふるに至りしを以て総辞職か將た現状維持か二者其一を擇ぶの外なきに至りたるを以て首相は遂に意を決し「閣僚中飽迄も自説を固持するものあるに於ては内閣の統一を害し国務を遂行する能はず」との理由の下に総辞職する事とし各相の辞表を取り纏め十一年六月六日午前十一時 陛下に捧呈すると同時に党紀を紊乱するものなりとして元田、中橋の両相始め我新潟縣選出代議士 田辺熊一等六名を除名し党内の廓清を行ひ 新たに顧問制を設けて山本達雄外十名の任命を見たが我が山本悌二郎も則ち此顧問の内に加はった

●第二十一次加藤内閣成立した [十一年六月十二日]

十一年六月十二日第二十一次 加藤友三郎内閣成立した

高橋は内閣を改造し局面一新の計画を立てしも文部大臣中橋徳五郎、鉄道大臣元田肇等の反対によりて頓挫したが延びて政友会内に紛議を生じ遂に内閣不統一を暴露した、め六月二日閣員挙て辞表を捧呈し大命は海軍大臣加藤友三郎に降下し加藤内閣が成立した

内閣総理大臣	加藤友三郎	外務大臣	内田康哉
内務大臣	水野練太郎	大蔵大臣	市来乙彦
陸軍大臣	山梨半造	海軍大臣 兼	加藤友三郎
司法大臣	岡野敬次郎	文部大臣	鎌田栄吉
商農務大臣	荒井賢太郎	通信大臣	前田利定
鉄道大臣	大木遠吉		

●鉄道請願に関する諸経費 [十一年七月十九日]

鉄道敷設速成請願の爲め 前に本間一松が上京し十一年七月十九日には青木永太郎も上京したれ共 予定線たる我が佐渡線よりも已に起工決定せるものにて種々事情のため未だ其の運びに至らざるものさへあるの状勢なれば前途何時とも見越しがつかず何等得る処もなく空しく帰った  
此問題の爲め要したる経費の収支を示せば左の如くである

町村名	配当額	収入	
相川町	五〇〇円	二五〇円未納	収支計算 四、五〇〇円 配当額 内 一、一七三円十二銭 第一回委員費 一、五五二円七三銭 第二回委員費 一二〇円三四銭 第三回委員費 二三三円三〇銭 出縣委員費 三三九円九五銭 諸雑費 四八七円八九銭 現在金 計金 三、八〇七円三三銭 差引
二見村	八〇	全納	
澤根町	一二〇		
河原田町	一〇〇		
八幡村	一〇〇		
二宮村	三〇〇		
金沢村	三五〇		
吉井村	三〇〇		
新穂村	四〇〇		
畑野村	三五〇		
真野村	四〇〇	一一〇、四〇未納	

西三川村	七〇	全納	金六九二円六七銭 未納額
小木町	一〇〇		内訳 (上掲再録)
羽茂村	一〇〇		二五〇、〇〇 相川町
赤泊村	一〇〇		一一〇、四〇 真野町
松ヶ崎村	五〇		三一〇、〇〇 両津町
岩首村	一〇〇		二二、二七 加茂村
水津村	五〇		計 六七二、六七銭
河崎村	一五〇		此表ハ大正十二年三月ノ調査ナレバ未納者ガ其 後ニ於テ納入セシヤ如何ハ著者之ヲ知ラス
両津町	四〇〇	三一〇、〇〇未納	
加茂村	一五〇	二二、二七未納	
内海府村	四〇	全納	
外海府村	五〇		
高千村	一〇〇		
金泉村	一〇〇		
合計	四、五〇〇円	収入三、八〇七円三 三銭 未納六九二円 六七銭	

●佐渡政友倶楽部の會合 [十一年九月十七日・二十三日・十月二十一日]

佐渡政友倶楽部にては十一年九月十七日午後一事より新穂六丸亭に於て教育及交通土木の部会を開き本間、青木の両総務、高野、葛西、中川、後藤、河野、矢部の各幹事、石井、小林の委員出席し

教育部に在りては○佐渡高等女学校の縣管移管○佐渡農学校の昇格

土木部に在りては○郡道二十一線の縣管移管

等に関して協議する処ありしが尙來る二十三日新町吉田屋にて幹部会開催すること、し懇親会を開いて八時散会した

九月二十三日は新町吉田屋旅館にて幹部会を開きたれ共 出席者は青木総務 北脇、中川の両幹事等にて出席者少数の爲め何等決定することもなく倶楽部総会を十月二十一日頃開催の予定に大体の申合はせをなし分袂した

十月二十一日午後二時より金沢村農會堂にて春期総会を開きしに出席百余名にて幹事長 河原治一開会の辞を述べ酒井直一座長席に着き会務の報告を済ましたる後左の宣言、決議を可決し役員を推薦して宴会に移り 本間、青木其他数人の席上演説ありて七時頃散会した

宣 言

思想ハ經濟ノ延長ナリ 經濟ハ思想ノ擴充ナリ思想經濟彬々トシテ國民生活始メテ完シ方今我國ノ現状ヲ見ルニ思想ノ動搖經濟ノ紊乱今日ヨリ甚シキハ莫シ幸ニシテ我佐渡ハ忠蹟ノ存在ト天與ノ富源トニ依リテ此弊風ニ感染スルコト甚カラズ雖モ口ヲ未然ニ防グハ識者ノ任務ナリ 一片憂國ノ至情ヲ懷抱スル士ノ豈座視スルニ忍ビシヤ之ヲ思想界ニ見シカ承久ノ昔畏クモ順徳天皇ノ遷幸シ給ヒシヨリ 我佐渡ハ建國創業ノ大精神タル尊皇思想口然トシテ起リ真野宮ハ実ニ郡民崇仰ノ標的タリ而シテ近時思想界ノ動搖ヲ省ミレバ皇室中心ヲ鼓吹スルノ必要益々大ナルヲ感ズ吾人ハ此自覺ニ基キ 此際健実ナル皇室中心

思想ト明敏ナル政治智識トヲ具備スルノ士ヲ推シテ大正維新ノ大政ニ參與セシメ以テ我國憲政ノ完備ニ  
努力スルノ覚悟ト用意トヲ怠ルベカラズ翻ツテ本郡　　ハ如何近時郡民ノ自覺ト當局ノ誠意トニ依テ  
長足ノ進歩ヲ為シ面目ヲ一新セルノ觀アルモ尚改良創造ヲ為スベキ施設ノ多々アルヲ觀ル殊ニ近ク郡制  
ノ廢止セラル、ニ於テハ更ニ其必要ノ益々大ナルモノアルヲ感ゼズンバアラズ

抑モ立憲政体トハ多数ノ勢力ヲ以テ多数ノ幸福ノ為メニ行フ処ノ政治形式ナリ勢力ハ先ヅ意志表示ニ其  
動機ヲ置ク意志表示ハ政党ヲ形成ス 然ラバ中央地方共ニ多数ノ黨員ヲ有スル我政友会ハ正ニ政界ニ於  
ケル中心勢力ナラズヤ約言スレバ郡民ノ福祉ハ擊ツテ我党ノ双肩ニ在リト云フモ過言ニ非ス 我党ノ任  
務重且ツ大ナリト謂フベシ 茲ニ於テカ我党ハ郡ノ施設全般ニ涉リ曩ニ政務調査部ナル機關ヲ設ケ賢オ  
ヲ挙ゲ達識ヲ蒐メ之ニ依テ輿論ニ懇ヘ輿論ヲ善導シ以テ其達成ニ些ノ遺憾ナキヲ期セリ 我党信望ノ  
益々旺ナル亦其処ト謂フ可シ 然レドモ我党ハ今日ノ隆盛ニ満足スルモノニ非ズ 更ニ思想界經濟界ニ  
勇躍奮勵郡民ノ福祉ヲ増進シ以テ多数党タルノ任務ヲ完フセンコトヲ期ス

右宣言ス

#### 決 議

- 一、 鉄道ノ速成ヲ期スルコト
- 一、 越佐航路ノ改善ヲ期スルコト
- 一、 港湾ノ修築ト道路ノ完成ヲ期スルコト
- 一、 電話専用海底電線ノ敷設ヲ期スコト
- 一、 中等教育ノ擴張並ニ統一ヲ期スコト

#### 役 員

総理 山本悌二郎

青木永太郎、本間一松、葛西肇、水谷松次、久保田金五郎、高野宏策

相談役 齋藤長三、北条欽、北脇満三、本間茂太郎、鳥井嘉蔵、伊藤亀太郎、古林信吉

矢部茂作、尾畑與三作

幹事 河原治一、村岡幸蔵、甲斐二十四郎、名畑清次、柴田繁、中川十右衛門、

本間乙吉、庵原長右衛門、梶井五郎左衛門

#### ●高等女学校の移転問題 [十一年十二月二日]

相川と金沢は十数年以前より高等女学校の郡立を争ひ位置を争ひ更に縣營移管に於て激烈なる競争をなし  
て郡の大問題たらしめしが郡会に於ては議員の多数に依て今日迄は相川町の勝利となり来りたれ共 今後  
猶ほ如何なる紛擾を来すべきやとは識者の大に憂ふる処なりしが新潟県知事 太田政弘 亦爰に見る処あり  
現に県立として相川に在る処の女学校を國の中央四通八達の便ある河原田町へ移転せしめなば金沢派は之  
れに同意を表して金沢女学校は自然廃校となるべく相川町亦再び別校を創設するの舉はあるまじく従つて  
佐渡に於ける女子中学校育の統一を計り得られる、なりと思推したるものと見えて十一年十二月二日午後  
二時 佐渡選出縣會議員 高野宏策、葛西肇、風間清太郎の三人を県庁に招いて相川高等女学校を河原田付  
近に移転新築せんとの内意を示して賛否の即答を求めた 寢耳に水の三人は突然の事とて大に驚き佐渡重  
大の問題にして果して之れが実現とならば一大紛糾を惹起するは必然なれば一応三人協議の上返答すべし  
とて一日の猶予を乞ふて県庁を退き折柄出縣中の郡長 福原桑治を其旅館に訪問して種々協議の上関係あ  
る各方面に打電して出縣を促したれば人々の驚きは一方ならざりしが中にも競争の當事者たる相川と金沢  
は周章狼狽為す処を知らず何れも町村會議員有志者等を其役場に招集して協議を擬した  
相川町にて町の死活問題なりとて町民大会を開き喧々□々協議の末

四十八名の縣會議員に対しては

相川町民は県立高等女学校の移転に極力反対す

知事及内務部長に対しては

相川町民は県立相川高等女学校の移転に極力反対す 閣下の賢慮を請ふ

政友、憲政の両支部及新潟の三新聞社に対しては

県立相川高等女学校の移転反対に御援助を請ふ

との、電信を發したが町の各種団体よりも各方面に同一の打電を為し而して町長を始め町會議員有志者等二十余名陳情の爲め大挙出縣し夫々運動奔走した

金沢町にても同様種々画策を廻らしたれ共 自村の有志者以外に新穂村の河原治一や吉井村の水谷松次をも應援に招いて村長を始め有志者十余名出縣してアラユル方面に陳情するなど非常の騒ぎとなりしが政友派よりは齋藤長三、河原田町よりは町長 中山直治、八幡村よりは村岡幸藏等も出縣して奔走した

縣會議員の三人も相川と金沢の紛擾は充分に承知して居ることなれば今後の事を考ふる時は寧ろ知事の内意に反対を唱へ居る時なれば知事に対する回答にも窮したるものなるべけれ共 知事は三人に内意を示したる時は已に断固たる決意を為したることゝて三人の回答の如何に拘はらず左の意味の提案をした

縣立相川高等女学校を河原田町付近へ移転するものとし其予算は二十三萬余円にして三ヶ年の継続事業とし十二年度の支出額は六萬余円である

知事は河原田に移転して佐渡の女子教育を統一せんと意向に出でたるものなれば相川及金沢の有志者が百の陳情千の請願ありとて何条夫に耳を仮すべき縣会に於ける提案の通過を希望するのみであった

此時金沢村の有志者は、佐渡政友倶楽部にては金沢高等女学校を県営移管とすべしと已に数回の決議を為したるものなれば此決議に則り進退せよと迫りたれ共 夫は相川と金沢の両立時代の事にして知事は已に統一せんとするものにして金沢に近き河原田附近へ移転せしめんとするものなれば古き決議を固執するにも及ばざるべし 知事の提案に同意すれば若干初期の目的を達したると同じければとて再三勸告すれ共中々応ぜず今は殆ど吳越同舟の有様にて相川、金沢の連合隊を作りて反対に飛び回り居る内に縣会は遠慮なく進行したが越後憲政会縣會議員は従前よりの關係上相川据置を援けたれ共 高野、葛西を始め政友會議員は全部知事の提案に賛成した 風間は憲政会なれ共知事の提案は佐渡に於ける女子教育統一には名案にして而かも他日紛擾の禍根を絶つものなりと認めれば憲政会より除外例を求めて賛成したれば知事案は多数を以て通過し直ちに確定議となった

爰に於て知事は河原田町は地籍狭隘にして適當の土地なからんと考へ初めより河原田町附近と提案せしものなれば河原田町及附近の二宮村及八幡村の三ヶ町村に対して二箇所づつの候補地を選定して提出せしめたる現在女学校を建設しある処の河原田町の候補地に決定した、此間種々の紆余曲折がありたれ共くごだしければ掲げぬ

#### ●本郡路線の縣道編入 [十一年十二月]

十一年十二月の縣參事会にて県道に編入されたる本郡の路線は左の通りである、但し路線の上に○印を付したるものは十二年四月内務省により認可された

○水津、松ヶ崎線

松ヶ崎、赤泊線、 赤泊、小木線、 此二線を改めて○松ヶ崎、小木線といふ

○羽茂、新町線      ○新町、真野線、      新町、阿佛線、

○中興、畑野線      ○畑野、河原田線      ○中興、新町線

○二見、澤根線      ○小田、相川線

●縣立相川高等女学校の改称 [十二年五月四日]

十二年五月四日新潟縣立相川高等女学校を新潟縣立河原田高等女学校と改称した、而して河原田に於ける校舎建築中は相川の校舎にて授業及執務すること、なりたるが新築校舎落成の上十三年十月六日移転した

●市橋藤蔵の死去 [十二年七月二十五日]

早くより本郡政界に尽力深かりし加茂村梅津の元代議士 市橋藤蔵は十二年七月二十五日 六十九歳を一期として自宅に於て長逝した 同人は佐渡三郡時代より三郡参事組合会議員、梅津村長、三郡惣代村長等を勤め縣會議員に四回 衆議院議員に二回當選して居る

三十五年十二月の佐渡新聞に「政客と藝妓」として ○市橋藤蔵と蔦子、之れも面白い取り組なり 市橋が男振りが良いので高等官といふ綽名を取り勿体らしくホホンと気取って一時は衆議院の檜舞台まで踏みながら根が頭の中がカンカラカンなのでイツも若手連に〇〇されて人後に落ちるは、丁度蔦子が容姿自慢で奥様然とスマシ込一ト頃はスнкаの流行ッ兒をも凌ぐばかりの勢ひなりしも元々面と座持だけで肝要の藝といったら生憎種切と来てるので例の石油口以来メッキリ沽券を下げしに甚だ似通ひたり、とは如何に、云々

明治三十五年十一月一日の佐渡新聞に天象道人なる者が身の上判断をして居る

坤 為 地

前代議士 市橋藤蔵

安政元年六月生

これは一貴公が市橋藤蔵前代議士でござったか、イヤ 名前は貴公が縣会の常置委員で男振りが良いために高等官と綽名をつけられた頃から存じております、ウムなる程一度でも代議士まで勤めた者が田舎の村長まで落ちぶれるといふは、どういう運勢だか一等頼むと仰しやるか、宜しうござる、ソコで貴公はおいくつでござる、ハア寅年の五十でござるか、道理で御頭に白いものが大分見えますハア、エートそうすると貴公は星回り二黒で易から申すと坤為地について心定り難く、且つ貴公は土星でも黒土の因からぬ土気でござるから、ドウも精神が柔弱で、マア例へて申さうなら、貴公のやうに一度でも代議士の椅子へ登ることが出来たなら、通常の間人ならば其位置を利用して今頃は何か蟹かなって居るでござるが、貴公はどうも黒土の因からざる柔弱の精神だから、議場で一言気炎を吐くぢやなし、ヤレ無能だの木偶だのと馬鹿にされて、トウトウ今では加茂村長といふ情けない月給烏に零落したやうなものでござる、其癖貴公も八百円の歳費では追付かず、杉山の二三ヶ所も売ったそうじゃござらんか、チト磯部（八五郎）老のやうに損の行く順番になったら義理もへチマも捨て「政党の關係を断つ」とか何とか、木で鼻こくる様な廣告でもして逃出さっしやれ、又此星は心正直なれ共欲深く吝嗇心あり、且つ疑惑多く何事についても疑ひ迷ふ心あつて決断鈍く、表面静にして温順のやうに見えれど心底片意地にて剛直高慢の心あり、其為めに他人を輕蔑して憎まれることある生れ付でござるから、之れは能く御注意が肝心でござる、何でも度胸を廣く持って心を泰山のあきに置けば、老年長寿と為す程運氣強く繁昌するでござらう、亦此星の生れは若年の時色情で苦勞すると見えるが、お若い時は随分やりなされたでござらう、イヤイヤ蔽しなさんな、夷の清七とかへ田地を売った金を前預けにして置き、盛んに札ピラを切つて馬鹿な真似を尽された事などは今以て有名な話ではござらんか ハハハア・・・

●山本悌二郎の帰省 [十二年七月二十七日]

代議士山本悌二郎は十二年七月二十七日帰省し三十一日午後河原田町入江座にて政談演説会を開き山本代

議士、齋藤長三、石井四山、児玉竜太郎等出演した

八月二日佐渡政友倶楽部の大会に出席し三日午後十二時小木より第一佐渡丸に乗り直江津を経て帰京した

●佐渡政友倶楽部秋期大会〔十二年八月二日〕

佐渡政友倶楽部にては十二年八月二日午後三時より新町新盛座に於て秋期大会を開き山本代議士初め百三十余名出席し幹事長 河原治一開会の辞を述べ酒井直一座長となり宣言決議を可決し山本総裁は現今の政情並に今秋の縣議選挙に對し激励の演説ありたる後役員を定め閉会 行形亭にて懇親会を開いた

宣 言 (不見當)

決 議

- 一、佐渡国有鉄道ノ速成ヲ期ス事
- 二、航路ノ擴張及交通ノ改善ヲ図ル事
- 三、港湾ノ修築ヲ期スル事
- 四、電話専用海底電線ノ布設ヲ期スル事
- 五、教育ノ改善發達ヲ期スル事
- 六、農村ノ振興ヲ図ル事

役 員

総務 高野宏策、葛西肇、名畑清次、河原治一

幹事長 柴田繁

幹事 本間長治、本間乙吉、川島藤蔵、甲斐二十四郎、村岡幸蔵、渡辺茂次郎

相談役 齋藤長三、鳥井嘉蔵、北条欽、久保田金五郎、北脇満三、本間茂太郎、

庵原長右衛門、右近市之丞、水谷松次

猶右の外縣會議員候補者選考委員に左の五名を選挙した

伊藤亀太郎、本間一松、齋藤長三、青木永太郎、小菅鉄五郎

●南海春洲等の政談演説會〔十二年八月二十五日〕

言論時報記者、関西青弁論會幹事、立憲青年黨議員、南海春洲、皇室中心主義宣伝者、大和民勞會員、高島憲太郎と稱する青年二人は北陸漫遊の途次なりとて本郡に渡り

八月二十五日午後七時より河原田町入江座、二十八日相川町相川館

九月一日両津町桜本座

に於て政談演説會を開いたとのことなれ共 詳細は分からぬが當時河原田町の新聞「新佐渡」に左の如き漫評があつた

(上略)最後に佐渡電灯征伐と河原田町政の掃除を行つたが、あれは事實と少しも違ふ處なく百發百中克く的中したようであつた、せめてあゝした演説會が月に一回位催ふされてくれればいゝがナアと夜涼の河原田各所に囁き声を聞く云々

●佐渡実農倶楽部〔十二年八月一日〕

佐渡小作連組合なる佐渡実農倶楽部にては十二年八月一日 新町風間旅館にて幹部會を開催したが出席者四十余名にて會長 菊地弘吉開会の辞を述べ次に副會長 藤木駒蔵の會務報告に引続き石田芳太郎は現在政界の混沌たる有様 殊に農民に不利なるを痛罵し夫を一掃する為め農民の大同團結により眞の農村に理解ある為政者を選出しなければならぬと叫び 今秋より月刊雑誌「佐農倶楽部」を發刊して専ら智能の向上

を図るべしとの意見を發表した而して左記の事項は満場一致を以て可決し終つて会食雑談の後散会した  
決議事項

- 一、 秋期講演会開催の件（日時及会場委員附託）
- 一、 委員は各町村より二名づつ選出する事
- 一、 県議戦を前にして農民党は農村理解の議員を選出する事
- 一、 本部及事務所は真野村新町に置き事務支部は各組合に設く
- 一、 我農民党は各自何れの件を問はず常に一致団結する事
- 一、 本組合の智識改善につき機関雑誌「佐農俱樂部」月刊発行する事
- 一、 各町村組合にて農事視察を為す時は宿泊の便を計る事

●第二十二次山本（第二次）内閣成立 [十二年九月二日]

十二年九月二日第二十二次山本権兵衛（第二次）内閣成立した

八月二十四日加藤首相薨去せるを以て閣員総辭職を為し三十一日大命は山本権兵衛に降りたれば山本は衆議院内の各派首領の聡立内閣を組織せんとしたるに革新倶楽部の犬養は承認したるも政友会の高橋、憲政会の加藤は反對した折柄九月一日突如として関東地方に大震災起りしが此火炎帝都を焦しつゝある二日夜赤坂離宮の芝生に於て山本内閣の親任式は行はれた

内閣総理大臣	山本権兵衛	外務大臣	兼 山本権兵衛
内務大臣	後藤新平	大蔵大臣	井上準之助
陸軍大臣	田中義一	海軍大臣	財部 彪
司法大臣	兼 田健次郎	文部大臣	兼 犬養 毅
商農務大臣	田健次郎	逓信大臣	犬養 毅
鉄道大臣	山之内一次		

●山本再び予算委員長となる [十二年九月]

十二年九月召集されたる関東大震災直後の第四十四期議会に於て我が山本梯二郎は再び選ばれて衆議院予算委員長となつたが名聲益々昂り信望を加へた、山本は財政経済的の才能ありしことを政友会総裁原敬に認識せられてより党内に於ても重用せられ政友会の財政経済政策は当時主として山本の立案に拠りしとのことであつた

猶曩に大正六年の第三十期議会に於て始めて衆議院予算委員長の重職につきし時已に議員全体の信望を一身に募め名委員長との名声を擅にした、此頃より原総裁の信任厚きを加ふる様になつたのだ

其後大正九年原内閣当時第四十三期議会の折 政友会を代表して予算演説を為すに當り盛んなる敵党の弥次をモノともせず正々堂々たる大演説を試み遂に敵党をして謹聴の止むなきに至らしめ、憲政会に於ける浜口雄幸と相並んで議會議論の双璧と推稱せらるゝに至つた

●第十九回新潟縣會議員選挙 [十二年九月二十五日]

十二年九月二十五日は我が新潟縣会第十九回の議員選挙である 今各派の状勢を見るに

政 友 派

佐渡政友俱樂部にては八月二日の秋期大会に於て候補者選定の為め伊藤龜太郎、本間一松、齋藤長三、青木永太郎、小菅鉄五郎の五人を詮衡委員に挙げしが委員は八月十八日午前十時より中興の植田屋旅館に葛

西、名畑の両総務 柴田幹事長を加へて委員会を開き協議を擬したるも決定に至らざれば九月二日更に第二回を開くことにして散会した

九月二日再び中興植田屋に委員会を開き委員幹部等会合して各地の情勢等を斟酌し高野宏策、中川十左衛門の二人を推して必勝を期し事務所を河原田に置き選挙委員長に本間一松、副委員長に齋藤長三、委員に青木永太郎、伊藤亀太郎、嵐城治作、佐野忠吉、佐藤嘉十郎、寺島善四郎、伊藤円蔵を挙げ陣容を整へたるに葛西は実農倶楽部を背景として出馬せんとし、宇留間寅吉 亦公認を迫り来りたれ共 葛西は苟も総務の重職にありて党議に服せざるならば断乎たる処置を執るも許すべきものにあらずとなし又宇留間は憲政会に於て松榮が立候補する時は地盤なく到底勝算なりければ人を派して説かしむるの方針を以て幹部及委員は更に九月八日金沢村の農会堂に会合し 高野、中川の二人を改めて公認し地盤割りをなし河原田中沢屋旅館を事務所となし高野、中川の両候補及児玉竜太郎、石井四山等を以て言論戦を開始した

### 憲 政 派

憲政派にては十二年八月三十一日夜河原田江戸屋旅館に候補詮衡会を催ふし、野沢卯市、松榮俊三、小杉胤次、近藤吉太郎、石原五之吉、中山五兵衛、風間清太郎、本間和平、坪井久太郎、浅香寛、等出席し種々協議の結果詮衡委員を挙げて一任することゝして委員に浅香、本間、坪井、土屋六右衛門、迎町弥曾吉、河原作一、伊藤藤右衛門、茨城五郎、高津昇之助等を挙げて散会した

九月八日江戸屋に委員会を開きしに時恰も東京大惨害の折柄なりしかば斯る時に於ては両党協調の上政治運動は遠慮するが可ならんとの説もありたれば大体此説に傾きて相田栄蔵一人を立てることに決定し十一日より新聞に相田立候補の廣告を為したる処十六日に至り選挙本部なる江戸屋旅館へ相川町長 渡部三郎平、町会議員 井上栄吉、其他有志者数名押寄せ 相川にては舉町一致にて議員を出すことに決定したれば是非 松榮俊三を公認されたしとの申出でに幹部も今更相田の公認を取り消す時は相田に対して相済まざるのみならず党の面目にも関することでもあり去ればとて二名を公認する時は選挙会を混乱激烈に導くのみにて時節柄不謹慎の譏りを免れぬ事であると困り居る処へ當の相田自ら進んで辞意を表したれば幹部もホッと一息、協議の上相川の横車には勝てず遂に相田に代へて松榮を公認することゝしたが黨員中にも不平の者もあつたけれ共 幹部が隠忍持長して平和に梟[けり]をつけた而して松榮、浅香、中山、井上等が十九日沢根を皮切りに言論戦を始めた

### 佐渡実農倶楽部

佐渡小作人組合にては九月一日河原田町中沢屋旅館に会合して縣會議員候補に就ての協議会を催ふせしに中山十左衛門と葛西肇を支持するとの両説ありて甲論乙駁容易に決せず葛西を推さんとの説稍優勢なりしも一部反対者が中々之れに服従せざりしを以て小作聯合会の名を用いず止むなく実農倶楽部の名を以て葛西の推薦廣告を為し夫と同時に葛西を小作人組合の顧問に挙げた

然るに金沢村を中心として附近町村の小作組合中には葛西候補を快しとせず寄々会合て協議を擬しつゝあつたが十九日中興植田旅館に会合協議の上満場一致を以て中川を推すことゝなり「小作人聯合組合有志」の名を以て新聞廣告をした

爰に於て小作組合は二派に別れ中川派は植田旅館に事務所を設くれば一方は実農倶楽部としては九月二十日より事務所を河原田のカネ長旅館に置き選挙長には菊地弘吉、副長には二宮の藤木駒蔵、河崎の富樫利八、金沢の本間傳四郎、事務委員長には石田芳太郎が推され其他数十名の委員を置き陣容を整へ葛西の爲めに奮闘した

## 宇留間派

政友派の郡会副議長たる二見村の宇留間寅吉は二見村有志者に推されて立候補せんとし事務所を沢根町に設け 相川町の有志者とも提携し其公認を政友倶楽部に要求し来りたるも政友倶楽部にては已に高野、中川の二人を公認したることなれば今更之れを変更する譯にも行かず曩に書面にて回答はなしたれ共 行違ひ等ありて為めに二見村政友会に動揺を来さんことを恐れ特に齋藤長三を其事務所に派遣し宇留間及有志者に面会して親しく懇談せしめし処 何れも之れを諒とし公認なき以上は断じて立候補せざるのみならず何等他意なかざれば今後共党の為に尽力すべきことを誓ひ平穩に解決した

斯くて九月二十五日の投票日は来た 二十八日開票の結果は、有権者総数一万五千二百三十二人にして内失格者五百九十六人 棄権者二千七百四十八人 投票総数一万八千八百八十八票此内無効其他二百九十三票に各候補者の得票は左の通りであった

當選 五千六十四票 (憲政) 松榮俊三  
       二千八百三十五票 (政友) 中川十左衛門  
       二千五百六票 (同) 高野宏策  
 次点 千百四十票 (実農) 葛西 肇

各候補の各町村に於ける得票は左表の通りである

町村名	松榮	中川	高野	葛西
相川町	699	8	74	0
二見村	248	10	1	33
沢根	313	66	0	13
河原田	46	6	126	19
八幡	7	6	118	27
二宮	109	9	199	197
金沢	10	740	2	9
吉井	123	351	2	160
新穂	76	605	24	69
畑野	256	12	580	69
真野	358	6	358	4
西三川	91	16	175	13
小木	271	14	357	13
羽茂	158	186	22	285
赤泊	465	15	17	79
松ヶ崎	40	100	28	45
岩首	94	52	5	32
水津	92	87	0	0
河崎	316	224	37	68
両津	256	230	13	7
加茂	220	46	126	75

内海府	110	16	17	1
外海府	67	37	0	0
高千	339	85	0	29
金泉	323	6	124	0
合計	5,064	2,835	2,506	1,190

此選挙に於て憲政会の本間和平は三人の候補者を立てんと欲し松栄の外に渡辺金左衛門を推さんと欲し交渉勧誘せしも渡辺は應じなかつたそうだ

選挙には能く有勝の事だ、此頃は無学の者は自分の姓名さへ書けない者が間々あつた 況んや他人の姓名に於ておやだ、或る町村の有権者の某も則ち夫であつた そこで厚紙に候補者某の姓名を片仮名で切り抜かせ夫を携帯して紺屋の型紙のように其原紙を投票用紙の上にあてて切り抜いた処へ墨を塗つたは良いが文字を知らぬ悲しさは左文字に写してしまつた、

左文字の投票は無論無効であつたであらうが此思わぬ不覚を知つた某、此愛すべき無筆者の驚きと悲しみとは容易に想像されよう

●葛西肇の除名 [十二年九月二十九日]

佐渡政友倶楽部総務葛西肇は前に記したる通り縣會議員の公認候補たらんことを要求したれ共 拒否せられたるを以て佐渡実農倶楽部に推されて其候補たらんとせるを以て其不条理を申送りしも之に應ぜず立候補したることは佐渡の選挙会を攪乱せるものなりとして政友倶楽部は之を除名するの手續きを為し左の通り通告を為すと同時に立憲政友会をも除名するの手續きを取つた

通 知 書

今回縣會議員選挙に際し総務の重職に在りて當部の決議を無視したる行動は甚だ不都合なり依て除名す右及通知候也

大正十二年九月二十九日 立憲政友会佐渡倶楽部

総裁 山本悌二郎

葛西肇 殿

然に當の葛西は選挙を餘所に當時小樽に在りて除名通知の前日即ち二十六日に脱党届を政友会本部へ送付せりとて十月二日佐渡の新聞に

立憲政友会を脱す

葛西 肇

との廣告を出した、佐渡実農倶楽部にては此報に接するや直ちに葛西を同倶楽部の総裁に推した

●小作聯合會 [十二年十月十日]

佐渡小作聯合組合会は縣會議員候補者のために分裂したる如き状態なりしも是は一時の出来事にして会としては其分裂を許さざる事情もあれば其融和の爲め十二年十月十日河原田町金長旅館に兩派会合を催ふしたるに総裁葛西肇を始め多数出席し、縣会戦の跡始末及今後の方針並に来るべき総選挙に対する態度等に対して協議を為したる後 左記事項を決議し終つて酒宴に移り盛會裡に散会した

決 議

一、我が実農倶楽部は一致協力何事も同一歩調を取るべき事

- 一、我が倶楽部は既成政党に偏せずの独立農民派及労働者を以て如何なる選挙界にも当たるべき事
  - 一、本倶楽部には特に理解ある人士篤農家を以て名誉会員となすべき事
  - 一、農具及肥料の共同購入を為すべき事
- 猶従来の総裁を統理と改め前総裁葛西肇を統理に推した

●政友会新潟縣支部大会 [十二年十月十七日]

十二年十月十七日政友会新潟縣支部にては九月の縣會議員選挙に大口を博した祝賀を兼ねての大会を開く  
 支部長 山本悌二郎は東京より来り佐渡より出席したる者は齋藤長三、後藤惣作、河原治一、須藤茂三郎、  
 矢部茂作、児玉竜太郎、高野宏策、水谷松次、柴田繁等である

此会に於て支部長以下役員の改選すべきものなりしも山本支部長は東京在住なれば佐藤友右衛門が其代理  
 として党務を執行して居る 然るに此佐藤には横暴の挙動多しとし非難する者がある、夫故山本を支部長に  
 再薦する時は無論佐藤が代理をするといふので山 [本] の再薦に反対するものありて非常の紛擾を来した  
 が今大会の全貌は失念したれ共 支部長に関する事だけ次に掲げる

山本の支部長に就任以来年久しき事なるが同人は東京に居住し且つ近来は中央政務忙しき為め党務一切を  
 佐藤に委託し佐藤は山本の代理として県内の党事を統裁して居る 然るに佐藤は生来傲慢不遜の態度を以  
 て黨員に臨み従つて其為す処甚だ専横を極むることがある 黨員の不平を懷き佐藤を排斥せんとするの舉  
 ある亦是非もなきことである 故に佐藤を退けんとせば山本の支部長を罷めしむるが口徑ならんと策する  
 者がある、昨年内閣改造問題の口々たりし時 山 [本] は改造派にて非改造派の高橋光威、田辺熊一等は迫  
 って支部長を辞さしめんとせし関係あり 今や高橋は榮地に在れば山本を支部長より退かせて高橋を後任  
 に推すこと、せば手もなく佐藤を罷めさせる事が出来るといふ所謂一石二鳥の策を講じ昨十七日の大会に  
 は西蒲原郡の田中繁太の如きは田辺の意を受け多数黨員を率ゐる来り 山本は自ら進んで支部長を為さんと  
 考へて則ち支部長の辞表を提出したれば幹部派は是非山本を支部長と為さんと考へたるを以て兜を脱ぎ山  
 本の面目を保たしむるため再薦してくれ 然れば其他は総て諸君の主張を容れるといふことで妥協成立し  
 て山本の再薦と決定したのだ 而して山本は適當の時期を見て佐藤の代理を解くこと、した 之を以てサシ  
 モに激しかりし問題も平定した

尤も之れには縣会に於ける役員の件も関聯し居たのであつたけれ共クダクダしければ爰には書かぬ

●阪口仁一郎の死去 [十二年十一月二日]

本縣憲政会支部長 阪口仁一郎は相洲平塚の別荘にて永らく病氣療養中であつたが薬石効を奏せず十二年  
 十一月二日死去した、同地にて荼毘に附し遺骨は六日新潟に着し十一日午後一時憲政会新潟支部より出棺  
 し市内長音寺にて党葬した

●佐渡実農倶楽部幹部會 [十二年十一月五日]

十二年十一月五日 羽茂村葛西統理の別邸に佐渡実農倶楽部の幹部會を開く 会する者菊地弘吉、藤木駒蔵  
 等十数名左記諸件を満場一致可決した

- 一、佐渡小作組合を佐渡郡小作労働聯合会と改称す
- 一、本組合は統理の裁可を得ざれば何事も決議せざる事
- 一、本聯合会は郡内外の木綿商と協調して専ら廉売行商を為さしむる事
- 一、本聯合会は本郡荒物生產品の共同販売を為すべき事

但し、出荷区域は第一区両津、第二区河原田、第三区前浜地方の三ヶ区となすを期す

一、 秋季大会を開催する事

一、 我倶楽部は絶対的新政党たる事

而して決議事項中秋期大会は来る十二日午前九時金沢村郡農会堂に於て佐渡義民追悼会を兼ねて開催することに決し 当日は北蒲原郡中条町の縣會議員 須貝快天の講演及各町村より多数の弁士を出演せしむることの申合せをなした

●小作総合會の秋期大会 [十二年十一月十三日]

十二年十一月十三日金沢村農会堂に於て佐渡郡小作労働聯合会は秋季大会を兼ねて佐渡義民追悼会を開催した 当日は朝来大暴風雨なりしにも拘らず熱心なる会員の参集せる者三百を数へ竹内河原田警察分署長、島津郡吏員等も来り、九時菊地会長開会を宣し次で戊申詔書を奉読し、森谷祭司の祭文を奏したる後郡長代理島津郡吏員、縣會議員、須貝快天及遺族の玉串奉典あった 午後一時より大会に入り左の宣言及決議を可決し二時より講演本間汎は「農村の改造」と題して演じたる後 須貝は「農村問題と普選」と題し三時間に渉る雄弁を揮ひて聴衆に感動を與へた、斯て両陛下の萬歳と聯合会の萬歳を三唱して会を閉ぢ山路屋旅館にて慰勞懇親会を催ふした

宣 言

農ハ國ノ大本ナリ 國家ノ中堅タリ 嗚呼宣ナル哉上ハ皇帝ヨリ下萬民ニ至ルマデ食サズシテ生キタル者ナシ 其食ノ根元製造者ハ自慢ニ非ラズ我等農民ヲ措キテ他ニアラズ、我等農民ハ破服粗食ニ寒暑ニ堪ヘ百年一日ノ如ク苦稼勉勵セシ流汗結昌ノ賜ト高言シテ憚ラザルナリ 斯ノ如キ貴重純潔ナル農民ヲ何ガ故ニ輕視セシヤ何ヲ以テ顧ザリヤ世ノ学者經世家ハ更ナリ歴代ノ為政者ハ何モ郡会集中ニ重キヲ置キ商工發展ニ尽クシタル缺陷ハ遂ニ農村疲弊滅亡ヲ為サシムルニ至リタルナリ

能ク世ノ識者ハ農村楽園ナルトカ平和趣味ナリトカ云フガ何故ニ樂天タルヤ愚ノ極ナリ翻ツテ農村目下ノ現状ヲ見シカ肥料ノ暴騰、小作料ノ高割、納税ノ多重、生産費ノ雑多、加フルニ米價ノ下落ニ伴フ其苦境ヲ如何ニセン、一体農学博士トカ、縣、農会長ナドノ責務ハ那辺ニ在ルヤ誠意ナキニ驚カザルヲ得ズ

(中 略)

我等農民労働者ノ保護安定ヲナサシムベク大同團結タル農民政治団佐渡政治倶楽部ノ新改業起立ノ所以ナリ

決 議

- 一、 我小作会ハ小作労働聯合会ト改名ス
- 一、 我小作労働聯合会ハ飽迄正當小作料ヲ請求スル事
- 一、 農村振興上物産ノ共同販売ヲナスヲ期ス
- 一、 我倶楽部ハ専ラ普選即時断行ヲ期ス

●須貝快天の政談演説会 [十二年十一月十五日]

佐渡実農倶楽部の大会に出席したる須貝快天は新穂、羽茂等にて政談演説会を開いた

十一月十五日午後七時より新穂の開盛座にて、本間汎「開会の辞」菊地弘吉「自治制の改造」石田芳太郎「佐渡実農倶楽部の真相」須貝快天「普選対農村」石田芳太郎「閉会の辞」にて十二時散会 同十六日午後七時より羽茂村青年会堂にて、北島会長「開会の辞」、に次で菊地、石田、最後に須貝は「新 政党の組織と農民の覚悟」の題下に弁を振ひ十一時三十分閉会した

●第二十三次清浦内閣成立 [十三年一月七日]

十三年一月七日第二十三次清浦奎吾内閣が成立した

十二年十二月第四十八期議會を招集し摂政宮殿下台臨の下に開院式を挙げられしが行啓途上殿下に對し奉り難波某の未曾有の大不敬事件突発したるため山本権兵衛内閣は総辭職を為し大命は清浦奎吾に降下して清浦内閣が成立した

内閣総理大臣	清浦奎吾	外務大臣	松井慶四郎
内務大臣	水野練太郎	大蔵大臣	勝田主計
陸軍大臣	宇垣一成	海軍大臣	村上格一
司法大臣	鈴木喜三郎	文部大臣	江木千之
商農務大臣	前田利定	逓信大臣	藤村資郎
鉄道大臣	小松謙次郎		

●政友本党の組織 [十三年一月十六日]

十二年十二月二十七日摂政宮殿下第四十八期帝國議會開院式に行啓の途中虎ノ門にて不敬漢の所業に基因して時の山本内閣は責を負ふて総辭職したるにより清浦奎吾後継内閣を組織するや政党に基礎を有せざるにより立憲政治の本義を無視したる貴族特権内閣なりとて政友会、憲政会、革新俱樂部等は民権伸張憲政擁護のため清浦内閣崩壊運動を開始した 世に之を三派の護憲運動といふた 此時政友会の総務山本達雄、元田肇、床次竹二郎、中橋徳五郎等は清浦内閣を援護せんとして連袂政友会を脱党した 実に十三年一月十六日なり 此四人は前年高橋是清内閣時代に於ける非改造派の頭目であつたが政友会を脱党するや直ちに新政党を組織した 政友本党則ち是れである 而して一月二十九日結党式を挙げて政府支持の態度を明かにした

此時本縣選出政友会代議士十一名の中 高橋光威、田辺熊一、鈴木義隆、木村清三郎、高橋金治郎、青木恒太郎、佐藤栄吉、円山嵯峨一郎の八名は連袂脱党して政友会本党に加盟し政友会に残留したる者は山本悌二郎、武田徳五郎、伊藤虎助の三人であつた

縣會議員も政友派二十五名の中 松木弘を始め十五名は脱党し政友会に残留せる者は本郡の高野、中川を始め雪磯口武、相沢成治、茂野誠衛、高橋寅市、山田正紀、高橋達太、内藤慎二の十名である

●新潟政友会支部大会 [十三年一月二十三日]

立憲政友会新潟縣支部にては今回の政変により 十三年一月二十三日午後二時より支部樓上に於て臨時大会を開きしに会する者百余名 山本支部長開会を宣したる後引つづき山本達雄等政友会四総務の連袂脱党によつて茲に一大動揺を來したる分裂の顛末を報告し憲政の危機に際し全党結束して立党の精神に従ひ勇往邁進せんことを望むと述べ、之に対する善後策につき協議する処ありて散会したる後 脱会組に属する人々を除き行形亭の山本支部長の招待会に臨み黨員の所懐など述ぶる処あり盛会裡に九時散会した

●新政党所属の有志會 [十三年一月二十三日]

新政党に参加せんとする代議士縣會議員及有志者八十余名も同じ一月二十三日小甚旅館に集まり高橋光威より開会の辞に引続き脱会に及んだる経過の報告を為し協力一致 自党の發展に努められんことを望む旨を述べて之れに対する種々の申合はせを為したる後 鍋茶屋に懇親会を開き丸山嵯峨一郎開会を宣し尚ほ黨員の所感演説あり盛会裡に九時散会した

●第四十九期議會解散 [十三年一月三十一日]

十三年一月三十一日 第四十九期議會は解散された

清浦内閣を支持せるものは政友本党及中立派の小部分に過ぎなかつたが護憲の目的を共にする政友会 憲政会及革新倶楽部の三派は一月三十一日第四十九期議會の休会明けの開議に於て内閣不信任決議案を提出せしに適々其前日濃尾国境一官駅に於て三派の領袖の搭乗せる汽車の転覆を企だてたる者ありたる事が議場の問題となりて大混乱に陥り為に議會は解散となつた

●小作労働組合の會合 [十三年二月七日]

佐渡小作労働組合は佐渡農政革新会を組織すべく 十三年二月七日河原田町金長旅館に總會を開きて之れを決議し宣言決議等を定めたる共 今不明であるが役員は左の通り決定した

会 長 菊地弘吉  
副会長 藤木駒藏 渋谷四郎  
幹 事 北条利作  
庶 務 石田芳太郎 本間寅藏 北島惣平  
書 記 本間 汎  
講演掛 富樫利作

●佐渡政友倶楽部臨時大会 [十三年二月八日]

立憲政友会佐渡倶楽部は各新聞に左の如き廣告を出した

立憲政友会佐渡倶楽部臨時大会

過般の政変により特権階級を基礎としたる清浦内閣の出現するや我政友会中之に左祖する者多く従つて多数の脱党者を出したることは既に我が倶楽部員各位の知了せる処ならむ 殊に此変態内閣は去月三十一日衆議院を解散す 之れ彼の新政党と聯合提携して其の与党を作らむ為めの画策明白にして独り我党の一私事にあらず帝國憲政の一大危機なり茲に於てか我立憲政友会佐渡倶楽部は左記の如き順序を以て協議する処あらむとす 事急にして全會員各位に対して一々通知を發するの暇なし各位は本廣告を通知書と認め附近黨員を誘ひ定刻参集せられんことを

日時、午前十時より役員会、午後一時より大会、午後三時より懇親会

場所、河原田町 幽景亭

会費、一人分三円

出席の各位は会前日迄に齋藤長三又は柴田繁氏に宛て通知の事

右廣告す

立憲政友会佐渡倶楽部

右廣告の通り二月八日午後二時より幽景亭に於て臨時大会を開く 出席者百二十余名に達し 柴田幹事長開会の辞を述べて、山本総裁、政友会本部、同新潟縣支部、縣客代議士其他郡内外より数十通の祝電を披露し 次に山本総裁の演説 (児玉竜太郎、代弁) 高野宏策の「我党分裂に対し佐渡倶楽部の決意」齋藤長三の「縣下の政党」等の演説あり 伊藤龜太郎を座長に推し議事に入りたるが宣言及決議は左の通りである

宣 言

清浦子爵ハ内閣組織ノ自信ナク政党ニ基礎ヲ有セザル政府ハ政局ノ安定ヲ期スル能ハザルヲ公言セリ 而カモ其後ニ於テ彼レハ優詭ニ藉口ニシテ遂ニ其自信ナキ内閣ヲ組織セリ名ヲ優詭ニ藉ルハ皇室ヲ政争

ノ渦中ニ投ゼントスルモノナリ 宮中府中ノ別ヲ紊ルハ皇室ノ尊嚴ヲ絶対中心トスル我國體ヲ傷クルモノナリ 清浦内閣ノ存立ハ則チ君國ノ大患ナリト云フベシ 而カモ自ラ其非ヲ悟ラズ敢テ議會ニ對シテ凶暴ナル解散ヲ行フ其罪斷ジテ容スベカラズ 吾人ハ茲ニ極力清浦内閣ノ倒壞ニ努メ併セテ之ヲ援護セントスル口党ノ撲滅ヲ期ス

#### 決 議

立憲政友会佐渡俱樂部ハ全会協力一致山本前代議士ヲ援ケ以テ憲政擁護ニ努ムル事

右満場一致拍手喝采の中に決議し兩陛下萬歳、摂政宮殿下萬歳、立憲政友会の萬歳を唱へて大会を終り引き続き懇親会を推ふし席上各自の熱烈なる五分間演説あり非常なる盛会裡に散会した

#### ●政友本党新潟支部発会式 [十三年二月十七日]

政友会を脱党したる高橋光威、田辺熊一、等は政友本党新潟縣支部を組織すること、し十三年二月十七日東京より床次竹三郎等も来り新潟劇場に於て発会式を举行し左の宣言、政綱及規約等を決議し役員を定めて政談演説会を開き大に氣勢を揚げた

#### 宣 言

立憲制度布カレテヨリ茲ニ三十余年、而シテ猶未ダ其美ヲ済スニ至ズ、徒ニ政權争奪ニ急ニシテ弊害百出殊ニ曠古ノ天災ニ遭遇シテ創痍甚ダ深ク、時ニ痴狂ノ徒出テ民心ノ恐惶極ニ達ス、國歩愈々艱難ニシテ國民更始一新ノ切ナルヲ思フ

政界ノ積弊ヲ一掃シテ革新ノ実ヲ挙げ、思想ヲ安定シテ民心ヲ鎮ムルハ當今第一ノ急務ナリ、俗論ニ媚ビテ公党ノ本領ヲ没却スルハ排セザルベカラズ、漁利ニ熱中シテ國家ノ規律ヲ紊ルハ正サザルベカラズ、權謀ヲ事トシテ矯激ノ言動ヲ敢テスルハ戒メザルベカラズ、公党ノ面目ハ毅然トシテ自主ノ識見ヲ把持シ、其所信ニ邁往シテ水火モ辞セザルニ存ス、

物貨ニ偏シテ功利ニ流ルノ風潮ハ延テ民心ノ頹廢ヲ助長シ、党弊之ニ由リテ起リ、綱紀ノ紊乱此ニ胚胎ス、革新ノ要義ハ先ヅ國民ノ精神ヲ振作シテ道義ノ向上ニ進一步スルニアリ、之レヲ大憲ノ条章に照シ政治ノ實際ニ徹スルモ上下帰趨ヲ一ニシ無益ノ鬩牆ヲ避ケテ政權ノ運用ヲ円滑ナラシムルハ當面ノ要務ナリ、ロニ憲政済美ヲ唱へ、狂躁却テ事端ヲ滋クシ階級相互ノ反感ヲ挑発スルガ如キハ斷ジテ排セザルベカラズ、即チ同志ヲ四方ニ求メ各階級ヲ通ジテ俱ニ共ニ政治ヲ行フハ帝國憲法ノ精神ニ合シ、直ニ政党政治ノ理想ヲ達成スル所以ノ途ナリト信ズ、吾人ハ籍ヲ政党ニ置キ常ニ政党政治ノ達成ヲ理想トシ憲政ノ基礎ヲ確立スルニ努力セシモ、動モスレバ兩院ノ感覺政党ノ不信政機ノ妙用ヲ乱ルモノアルヲ遺憾トシ、之レガ反省ヲ念トスルコト年アリ、ココニ同志ノ士ト共ニ本党ヲ樹立シ併テ新進ノ人材ヲ蒐メテ理想ノ実現ヲ清新ノ天地ニ求メントス、蓋シ政界ノ革新トハ國民ノ覺醒ニ成リ國民ノ覺醒ハ先覺者ノ更新ニ始マリ吾人ハ内ハ社会民人ノ協調階利ニヨリ民福ヲ増進シ外ハ國際正義ノ觀念ニ立脚シテ世界平和ヲ確保ス冀ルニ努メ、上下協力吾ガ皇室ノ尊榮ヲ護リテ稜威ヲ中外ニ宣揚シ、民心ノ安定国力ノ充實ト相俟ツテ國礎ヲ盤石ノ奏キニ置カシコトヲ期ス、此レ実ニ同志結党ノ精神ナリ、敢テ所信ヲ披瀝シテ之ヲ天下ニ訴ヘ同憂ノ士ノ翕然来リ会センコトヲ冀フ、

#### 政 綱

- 一、 國體ヲ擁護シ國權ヲ恪守シ以テ立憲制度ヲ確立シ其運用ヲ口ラザランコトニ努ムベシ
- 一、 明治中興ノ宏謨ヲ體シ庶政ヲ釐革シ人心ヲ作興シ以テ大正維新ノ実ヲ挙グベシ
- 一、 正義人道ニ基キ國際ノ信義ヲ重ジ烈國協調ノ成果ヲ収メ以テ人類ノ慶福ヲ増進スベシ殊ニ東洋ノ

平和ハ帝國自ラ其支持ニ努ムベシ

- 一、 國家ノ自衛ニ必要ナル國防斗画ヲ維持シ之レガ充實ヲ期スベシ
- 一、 教育ヲ振作シ特ニ國民教育及社会教育ノ完成ヲ期シ以テ民性ノ陶冶ニ努ムベシ
- 一、 社会政策ヲ確立シテ各階級ノ調和ヲ図リ以テ國家社会ノ發達ヲ期スベシ
- 一、 産業ヲ奨メ農村ヲ興シ貿易ヲ盛ニシ以テ經濟ノ基礎ヲ鞏固ニスベシ
- 一、 運輸通信ノ機關ヲ普及充實シ特ニ帝國ノ国情ニ顧ミ更ニカヲ海運ニ致シ以テ文化産業ノ發達ニ資スベシ
- 一、 綱紀ヲ肅正シ繁褥ヲ省キ以テ事務ノ公正敏活ヲ図ルベシ
- 一、 人材ヲ選抜シ剛毅明達ノ士ヲシテ其智能ヲ發揮セシムベシ
- 一、 中央集權ノ弊ヲ除キ地方ノ施設ヲ並進シ以テ都市町村ノ振興ヲ期スベシ
- 一、 公党ノ本領ヲ明ニシ蔽ニ党弊ヲ匡正シテ憲政ノ濟美ニ努ムベシ

#### 役員

総務委員 高橋光威 田辺熊一 丸山嵯峨一郎

幹事長 松木 弘

幹事 八名 相談役 八名（共に氏名略す）

斯くて各郡に俱樂部通信部等を設けたれ共 我が佐渡郡には一名の加入者もなかつた

#### ●中正俱樂部の結党式 [十三年三月二日]

政友会の分裂によって本縣々会の分野にも変調を來したが政友会を脱党した島田直治、阿部讓、横川丹章、は憲政会の山田実、山本治右衛門、中立の須貝快夫、革新俱樂部の伊藤泰蔵等と十三年三月二日鍋茶屋に會合して中正俱樂部なる団体の結党式を挙げ島田、山本の兩人を幹事とした

#### ●第十五回総選挙 [十三年五月十日]

十三年五月十日は解散による第十五回総選挙であるが各派の内容を偵察するに

##### 佐渡実農俱樂部

佐渡実農俱樂部にては來たるべき衆議院議員選挙に對し候補者を決定すべく十三年三月五日午後六時より新町の吉田旅館に幹部会を開きしに統理 葛西肇、石田芳太郎外十数名出席し石田の開会の挨拶に次で、葛西の総選挙に對する演説ありたる後協議に入り、農民代表として葛西統理を出馬せしめんとの説を満場一致にて可決したが尚ほ來る二十日を期し河原田入江座に於て春期総会を開催し須貝快夫外数名の弁士を招聘して演説会を併せ開き本郡選挙界の覚醒を期すると共に大に氣勢を揚げ葛西立候補の事も其際発表することゝした

翌六日午前八時より引続き幹部会を開き左の決議を為して正午散會した

- 一、 佐渡小作労働組合より成る佐渡実農俱樂部は來るべき総選挙に際し眞の農民本位の士を候補に立つる事
- 二、 佐渡小作労働組合長 菊地弘吉は不信任の故を以て除名処分にする事
- 三、 佐渡労働組合の名誉を毀損するものと考へ佐渡農政革新会を撤廢する事

然るに佐渡小作労働組合にては三月十二日新穂村の丸喜旅館に幹部会を開きて種々の協議を為したる後正午より同地開盛座に総会を開き河崎の佐合源治、真野の早川長太郎、沢根の本間与三郎を署名委員として左記の各項を決議した

- 一 過般「新佐渡」（新聞なり）に発表の會長除名の件は審議の結果本則に反したる者を

処決するの件

- 一 悪宣伝を取締るの件
- 一 当組合の会則修正の件
- 一 町村小作争議調停に努むるの件

右の件は総選挙に関係なければ共 前の実農倶楽部の決議に関係せるを以て此处に掲げた

#### 佐渡農政革新会

佐渡小作労働組合の一部より成る佐渡農政革新会にては十三年四月十五日正午金沢村山路屋旅館にて総会を開催し菊地会長開会を宣し議事に入るや先づ當日の重要案件たる代議士候補推薦につき協議の結果全会一致前代議士山本悌二郎を推すことに決定し次で選挙事務に関する委員の詮衡に移り左の通り決定した

選挙委員長 菊地弘吉

委員 藤木駒蔵 早川長太郎 矢本嘉一 外二名

相談役 沢根、山本権吉 二宮、土屋秀蔵 金沢、豊崎松蔵

河崎、佐合源吉 新穂、葉梨吉平 畑中、加藤十七蔵

真野、羽生門平 八幡、松本萬吉 羽茂、駒形俊平

赤泊、近藤庄吉

#### 佐渡政友倶楽部

佐渡政友倶楽部にては三月十日河原田町遊景楼に幹部会を開き席上 齋藤長三、名畑清次郎より中央及県下の政情視察報告ありたる後春季総会及衆議院議員選挙に関する重要事項を協議し終つて海岸各地へ遊説員を派遣し、清浦の組閣顛末より政友会の分裂、議会の解散と総選挙に際し國民の覚悟等に就て演説会を開くこと、し遊説員には左の六人を挙げて午後三時散会した

本間一松 齋藤長三 高野宏策 河原治一 村岡幸蔵 柴田繁

山本前代議士は四月八日東京を出発し魚沼郡政友会幹事 堀沢柁男、新潟毎日新聞記者 真島暝生等を伴ひ九日午後の佐渡丸にて帰省し金沢、小木、羽茂、両津等にて第四十六議会の報告を兼ねる政友演説会を催ふし佐渡政友会の大会に臨席し十三日午前の佐渡丸にて帰京の途についた

佐渡政友会にては四月十日午後一時より金沢村農会堂にて春季大会を開く 来会者百五十余名柴田幹事長開会の挨拶を為し矢部茂作を座長に推し衆議院議員候補者詮衡委員は座長の指名にて左の十六名とし委員は別室にて委員会を開き山本前代議士を推薦すること、なりたる旨を報告して満場の同意を得、山本より候補承諾の挨拶ありて閉会した

詮衡委員 伊藤亀太郎、平田泰蔵、村岡幸蔵、齋藤長三、北条欽、木下永蔵、  
本間一松、青木永太郎、高野宏策、白杵寿八、古城哲太郎、柴田繁  
葛西五市、須藤茂三郎、北脇満三、矢部茂作

選挙委員長 本間一松

副委員長 名畑清次

同 委員

齋藤長三、北脇満三、伊藤亀太郎、伊藤円蔵、石川寿作、佐藤嘉十郎、本間茂太郎、寺島善四郎、矢部茂作

#### 憲 政 派

佐渡憲政派にては四月九日午後河原田町江戸屋旅館にて幹部会を開き選挙対策に就て協議したるが候補者擁立すべしとの説と護憲三派協調の精神に基き候補者を立てずとの説及政友本党が塚本義胤を擁立するものならば之を援助すべしとの説との三説に分かれたるが容易に決せず更に十二日再会すること、したが此日の出席者は中山小四郎、風間清太郎、松栄俊三、土屋六右衛門、浅香寛、近藤光太郎の人々であった十二日には江戸屋に集会せしならんも其詳細を知ることが出来ざれ共護憲三派の協調に反対の態度を示せるため後掲 佐藤謙之輔の来りたるは此時なりしも会議の様子は不明である

●新潟護憲団の演説会 [十三年三月二十六日]

新潟護憲団本部にては佐渡十二万民衆の覚醒を促すべく三月二十六日新潟公論主幹 井上義仲、新潟日曜新聞主幹 吉井大介、新潟立憲青年党幹事 藤巻茂輔、新潟新聞記者 藤塚順次、新潟毎日新聞記者 真島暝生等を遣し河原田、新町、畑野、両津、新穂等の各地に政談演説会を開いて熱弁を振ふて聴衆に感動を与へ非常の盛会であった

●塚本派の演説会 [十三年四月三十日]

政友派にては素より山本前代議士を再選の意志なる処へ、護憲三派協調の趣旨もあれば得たり賢しとて正々堂々の陣を張り、憲政会にても幹部は同じく護憲三派協調の趣旨に基づき山本を應援すべく考へ居りしも不平の一派ありて之を悦ばず然るべき候補者あらば之を援けて一合戦を為さんなど考へ居る矢先塚本義胤立候補せんとして佐渡へ乗り込み来りしかば、一時は葛西肇を推薦せんと決議したる即ち葛西を統理と仰ぎ居る佐渡実農俱樂部を始め佐渡小作労働聯合会が之を援助すること、なりたれば憲政会の不平組も之れに参加して遂に塚本を担ぎ挙げる事、なつたが塚本の本郡へ渡来せしは四月三十日にて此時は本郡西三川村出身の高野清八郎とて憲政会へ候補の申込みをなして拒絶されたる男も、又北海道にて巨万の富を有し憲政会の有志者より立候補を慫慂されつゝ、ありなどと風評のありし熊谷林蔵も塚本同船にて渡来したが此二人はモノにならざりしも独り塚本は河原田町金長旅館に本拠を据へて政友会の山本と戈を交える事となつた

此時子爵 後藤新平は

政治の論理化を理想とせる塚本義胤君を推薦す

との新聞廣告を為せば又山形縣の旧自由黨員 駒林廣運は遙々来りて本郡の藤井千代雄や本間汎等と共に五月二日を振り出しに塚本の應援演説会を開始した

一日午後七時、両津橋本座	二日午後七時、河崎源左衛門方
三日午後二時、金沢農会堂	三日午後六時、吉井中ノ坊
四日午後二時、河原田入江座	四日午後六時、沢根大乘寺
五日午後二時、相川相川館	五日午後六時、入川地藏寺
六日午後二時、小木琴平座	六日午後六時、羽茂青年会堂
七日午後二時、赤泊	七日午後六時、新町新盛座
八日午後二時、畑野千歳座	八日午後六時、新穂開盛座

是より先護憲三派は各地何れも大会を開いて大に氣勢を挙げたが本縣に於ても三月十九日新潟で大会を開きて護憲三派以外の候補を出さざることの決議をしたので佐渡の憲政会にても其趣旨に則り政友会の前代議士山本悌二郎を推すこと、なつて左の推薦状を發したれば殆ど山本の独占となつた

推 薦 状

衆議院議員候補者

山本悌二郎君

謹啓

時下春色台蕩之候愈々御清適之段□□□来る五月十日を以て衆議院総選挙執行相成候処御承知之通現内閣は一部特権階級によりて政権を壟断し其成立の根本に於て何等國民と交渉関係無之全然憲政の常道を無視せるは勿論内外の失政日を追ふて相次ぐの状態に有之現下國歩艱難の事大時に際し斯の如き変態内閣をして猶其餘名を繋がしむるは國家の爲め洵に深憂に堪へざる次第に有之候 爰に於て吾が佐渡郡憲政会は今回の総選挙に當り大に輿論の威力を發揮し政府反対議員の多数を選出し以て速に政局の展開を期する爲め純真なる護憲の精神に法りて此際無用の競争を避け山本悌二郎を本郡選出衆議院候補者に推薦致候間何卒同君の當選相成候様御援助御投票被成下度謹んで御依頼申上候 敬具

大正十三年五月

佐渡憲政會

有権者各位

然るに政友本党の田辺熊一に私淑し居る石田芳太郎（赤泊村三川）や選挙の独占は憲政の本義に反するといふ意見を持てる森守蔵（河原田町）等は中央より政友本党の塚本義胤を拉し来り河原田町の中沢屋に事務所を設けて堂々と陣容を整へ政友会に反抗せんとの氣勢を示しければ護憲三派の関係より中央及新潟両党支部の意向に随ひ山本に應援すべく既に推薦状を出したる憲政会員の中にも平素山本の当選を嫉み嫌ふて不快に思ひ居る者は之を應援せんとするの形勢が見えたので政友会は勿論憲政会の幹部も大に憂慮し新潟の両党支部へ通報して善処方を求めたりしかば両支部協議の上憲政会の佐藤謙之輔（南蒲原郡選出代議士元 次官）を派遣し佐渡憲政会幹部と懇談せしめたが全黨員の一致結束は至難の形勢と見たる佐藤は強く幹部を戒諭して帰新したが間もなく當時新潟に居住せる野沢に面会して郡内同志の一部に反山本熱のあることを遺憾と爲し之れを融和せしむる方策に就て協議を求めければ野沢は

郡内の党事関係は前年相川立身館で諸君に申陳べたる通りなれば今回の事も諸君にて処理せられよと断った処が兩人は心窃かに思へらく野沢も塚本に好意を持っていると誤解し河原田へ帰りて其俣報告したれ共 野沢の意志は全くそうではなかったのである

是より先大正四五年の頃新潟の財閥白勢春三より屢々人を介して野沢に実業界入りを慫慂したのであったが野沢は齢已に知命に及んで今更実業界入りでもなかったからふと考へ、事業上の経験なきことを口実に謝絶したのであった然るに白勢は渴望止み難かりしものありと見へ終に阪口仁一郎（中蒲原郡で代議士となり旧改進黨の首脳で今は故人である）に野沢の説得方を依頼した、時に阪口は、「野沢を新潟に常住せしむれば自党に取っては非常に都合のよいことではあるけれ共 夫が爲め白勢に政治上の掣肘を加へられては困る」と考へたので「単に夫だけの事ならば自分に異存はないけれ共 萬一其爲めに野沢の政治行動に掣肘を加へらるゝ様の事があつては賛成出来兼ねる」と流石は阪口だ一石二鳥の策を以て白勢に詰めよれば「自分は政治上に關係は致さないけれ共 我事業圈内の人々が其好む処によるのは自由である」と白勢は明言したので阪口は我事成れりと野沢に勸説した 夫と同時に同志の池田正平も斡旋したので野沢も北叟笑んで之れに應じ大正十年秋頃より白勢に迎へられて公生活の一面を実業界に投じたのであるが其年の十二月郡会開会中野沢は相川立身館に同志の郡会議員其他幹部等を集めて

従来本郡に於ける政治問題は私が久しく縣會議員の職にあつた關係上万事御世話を引受け夫が習慣的になつて居たが之れは党勢發展の爲めには最前の方法であつたと思ふ、郡内の諸問題は郡内幹部諸君が夫

を斡旋又は解決せらるゝがより効果的であると信ずる、今回 私は事業上の関係で新潟に常住することになったから今後郡内の党事一切は諸君に於て適宜処理してもらひたい

と陳べて諒解を求めてあったから本間小田の兩人に答へたのは其意味であったのだ 然るに兩人は前に記したる様に誤解のありたりことは齋藤長三が此政党史を編纂するに當り資料蒐集のために三人に直接面会によって始めて誤解のあった事も分り又同時に諒解した譯である

斯て憲政会員の多数は塚本を助けて爰に激烈なる競争となつたのであるが、塚本は立候補の始めは中央の援助で大勲が来るとの触れ込みであったので一時人気は揚がったれ共 実際は掛声のみであった、めに憲政会多数の援助ありたるにも拘らず勝敗を氣遣ふ程の反響も起らず却て後は特権打破の人気に葬られてしまった

此時赤泊にては憲政会の風間清太郎は二階屋に事務所を設けて山本を應援し羽豆満平は塚本の事務所を大井屋に設けて運動を開始しつゝありし処へ野沢は新潟より帰り来りて羽豆に聞へば「予は政黨員にあらず個人として塚本を應援するのである」と言ひし故 野沢は此事務所へは出入りせざりしも二階屋の事務所へは出入りして風間等を激励して居たとのことである

開票の結果は

當選 四六五九票（政友会） 東京在住 山本悌二郎

次点 三〇一〇票（政友本党）東京在住 塚本義胤

本縣の成績は憲政会九人 政友会三人 政友本党一人 革新俱樂部一人 中立二人の十七人で左の通りである

憲政会		政友会	
一六九〇票	松井郡治	四二九一票	加藤知正
一〇八一票	山田又司	五五九〇票	大竹謙治
三八九六票	山田助作	四六五九票	山本悌二郎
四一二二票	石塚三郎		
三四八〇票	建部遯吾	政友本党	
四三二八票	吉原義雄	五〇八二票	高橋光威
二七四五票	中村貞吉	中立	
三四七三票	石黒大次郎	六九一票	増田義一
三九八四票	関矢孫一	三八八六票	堤 清六
革新俱樂部		四六二四票	高鳥順作
四八二〇票	富永孝太郎		

●第二十四次加藤（第一次）内閣成立 [十三年六月十一日]

十三年六月十一日 第二十四次加藤高明（第一次）内閣が成立した

第十五回総選挙の結果は清浦内閣を支持する政友本党議員は百十四名にて護憲派は二百八十七名の多数当選したれば清浦内閣は到底政見を執行する能はずとして二月七日総辞職を行ひ大命は護憲派の中堅にして第一党たる憲政党総裁 加藤高明へ降下したりければ十一日三派協力による加藤内閣の成立を見るに至った世に之れを護憲内閣と称した

内閣総理大臣	加藤高明	外務大臣	幣原喜重郎
内務大臣	若槻礼次郎	大蔵大臣	濱口雄幸

陸軍大臣	宇垣一成	海軍大臣	財部 彪
司法大臣	横田千之助	文部大臣	岡田良平
商農務大臣	高橋是清	逋信大臣	犬養 毅
鉄道大臣	仙石 貢		

●新潟三派護憲祝賀会 [十三年六月十八日]

十三年六月十八日午後一時より新潟市行形亭に於て本縣下の護憲三派は加藤内閣の成立祝賀会を催ふし出席者三百余名に達した 政友会の山本支部長憲政会齊藤支部長を始め両党所属代議士、縣會議員、幹部、地方黨員等にて二時半開会 阪本有隣開会の挨拶を述べて齊藤憲政会支部長は座長に推薦し次の如き決議文を満場一致可決の後山本政友会支部長は中央の政況と加藤内閣成立当時の政情とを述べ憲政史上空前の内閣出現を祝する意味の熱弁を振った夫より園遊会に移り和氣藹々裡に午後四時散会した

決 議

憲政擁護の本旨に基き益々三派結束を堅固にし國民の與望を擁護して諸般の弊政を改革し大に国策を實行して國利民福を期す

●佐渡護憲派の會合 [十三年七月二日]

十三年七月二日這般の総選挙後護憲派の幹部は未だ一回の會合も催ふさざりしが斯くては結束上遺憾の点なきを保し難きを以て二三有志發起となり此日午前十時より河原田江戸屋旅館に土屋六右衛門、本間和平、松栄俊三、石原五之吉、浅香寛、小田貫一（以上憲政会）本間一松、齋藤長三、高野宏策、名畑清次、柴田繁、河原治一、村岡幸蔵、石井四山（以上政友会）等の人々會合し先づ名畑清次より會合の旨意を述べて左記の諸件につき今後の申合せをなし午後四時三島屋に移り懇親会を開いた

- 一、 佐渡郡憲政、政友、兩派は従來の提携を一層強固にし同一步調を以て当面の政治に対進する事
- 二、 中央護憲内閣を擁護且つ策應して國民福祉の増進を期する事
- 三、 対外交策に就きて大体従來の方針を以て進み其具体的案件は三縣會議員に一任する事
- 四、 憲政、政友、兩派は一般民衆に対し立憲政治の意義を宣明し其自覺を促し選挙権擴張の準備に努める事

●山本代議士の帰省 [十三年九月七日]

代議士山本悌二郎は十三年九月七日夜行にて東京出發八日来郡した 九日午後二時より金沢村農會堂に於ける佐渡政友俱樂部の大会に出席し引続き同所にて第四十九期帝國議會報告演説会に出席した、猶郡内二三箇所にて報告演説会開催の予定であつたが中央政局の事情は山本を地方に留め置くを許さざりしを以て十日の汽船にて新潟を経て帰京した

●政友俱樂部の大会 [十三年九月九日]

佐渡政友俱樂部の秋期大会は十三年九月九日午後二時半より金沢村農會堂に開かれた折柄の豪雨なりし為め出席者漸く百余名幹事長 柴田繁開会の辞を述べて北条欽を座長に挙げて議事に入り「選挙法改正に関する件」を議題として柴田繁、高野宏策より簡単に意見の発表ありたれ共 結局護憲三派提携の上にて決定すべき問題なるを以て委員を挙げて憲政会と折衝することに決定し委員は本間、齊藤、高野の三名とし「役員選挙」は本間の発言にて、総務は總裁の指名、幹事及相談役は総務にて人選の上總裁の許可を受くること、し、評議員は各町村より選挙して幹事に通知することに決定したる後、山本悌二郎代議士の第四十九

期帝國議会の報告演説会に移り終了後同所にて懇親会を開きしに出席者五十余名にて盛会であった  
(役員氏名不明)

●農政革新会の總會 [十三年九月十日]

佐渡農政革新会の總會は十三年九月十日新町円行寺に於て開会し左の事項を決議したとの事であるけれ共  
詳細は分らぬ

- 一、 本年稲作に対しての件
- 一、 佐渡農政産業組合組織の件

本件は藤木駒蔵を委員長に、早川長太郎を副委員長に、松本満吉外数名を委員に挙げた

●尾崎行雄 来郡 [十三年九月十日～十五日]

護憲三派の領袖代議士 尾崎行雄は秘書 細田義弘を従へ十三年九月十日午後六時四十一分新潟駅着 出迎  
ひの羽田清次外多数の者に迎へられて藤田旅館に投宿し翌十一日大國丸にて午前十時両津着 両津市長 土  
屋六右衛門、立憲青年党代表 松瀬教五郎其多数有志者の出迎ひを受けて本間旅館に入り午餐の後、羽田清  
次、渡辺金左衛門、小杉偵二、等の案内にて自動車を駆り、吉井、金沢、河原田を過ぎ真野御陵を参拝し、  
畑野、新穂を経て潟上より加茂湖に舟を浮べて夕刻の湖畔の風光を愛で、両津着、午後七時より両津町、  
教育会、青年会、婦人会等主催の講演会に臨み「立憲の根本義」の題下に数時間雄弁を振ふた

十二日には明治記念堂、黒木御所跡を参拝して河原田の江戸屋旅館休憩、午後一時より入江座に於ける立  
憲青年党の結党式に臨みたる後同所の政談演説会を了へて、相川に向ひ午後七時より相川公民倶楽部主催  
の政談演説会に出で、高田屋に泊る

十三日は鑛山を見学して畑野に向ひ午後三時より同地千歳座にて、七時より新穂開盛座にて、政談演説会  
を為し新穂に一泊した

十四日は羽茂に向ひ葛西肇の別荘に休憩し六時よりは羽茂にて八時よりは小木にての政談演説会に臨みて  
小木に一泊した

十五日午前八時小木発第三佐渡丸にて寺泊へ渡航し弥彦神社を参拝し新潟に出て高等学校にて學術演説を  
最終として帰京の途に着いた

●立憲青年党の結党式 [十三年九月十二日]

今春の総選挙以来本郡の青年政治家間には新政党组织の運動起り居たるが追々具体化して十三年七月二十  
八日午後一時より畑野の大芳寺に全郡有志者の第一回打合会が催され松瀬教五郎发起人代表として今日に  
至る迄の経過を報告し、各自極めて懇談的に自由なる意見を述べ宣言綱領及党則の起草委員として塚原徹、  
金子太郎平、松瀬教五郎、金子三郎、森守蔵の五人を挙げて結党式は九月上旬盛大に催ふすことゝして散  
会した、当日の出席は左の人々であった

- 畑野村、金子太郎平、渡辺暎、猪俣久三郎、石川佐一郎、中川実、梶原元繁○小木町、塚原徹○羽茂  
村、若林甚三、若林友吉、○赤泊村、石田芳太郎○河崎村、市橋太五郎○河原田町、森守蔵○両津町、  
小池裕、松瀬教五郎○新穂村、金子三郎

斯くて九月十二日河原田の入江座にて結党式を挙げることゝなった、会場入口には大日章旗を交差して万  
国旗は街路上に蜘蛛の手に張り廻され 会場内は紅白の幔幕を張り廻はして裝飾され午後一時より結党式  
を挙げた、折柄来郡中の尾崎行雄の臨席を請ひ式後政談演説会を催ふすとの事なりしを以て定刻前已に立

錐の餘地なき迄に傍聴者は入場した

定刻に遅るゝこと三十分、一時三十分開会、幹事森守蔵開会の挨拶を為し次で本間久左衛門を座長に推薦して左の宣言、綱領、党則、を附議して満場意義なく可決確定し引続き役員は座長の指名にて左の如く決し来賓として中山五兵衛、土屋六右衛門の祝詞あり、次に尾崎行雄は二時間に渉る雄弁を振ひ最後に聴衆より普選に関する質問ありて尾崎の簡單なる答弁あり午後四時半盛会裡に閉会し夫より□亭酢屋にて懇親会を開き八時に解散した

#### 宣 言

我々ハ斯ル所懐ヲ提ゲテ汎ク郡内ノ同憂諸君ト手ヲ握リタイト思フ

是ハ即チ佐渡固有ノ問題トイフノデハナイ、政友会ノ分裂ニ因テ一頓挫ヲ来シテ居ルニハ相違ナケレドモ、全ク□□タル日本全土ノ風潮デア、日本ハ立憲政治國デア、如何ニモ形式ニ於テ立憲政治デア、然モ其實質ニ於テハ源平□□政治ヲ回想セシムルガ如キ、或ハ奏直ソウ漸ノ争覇戦ヲ髣髴セシムルガ如キ、寡頭専制政治デハナイカ、故原敬氏ノ「政治ハカナリ」ハ、其盲目的追従者ニ取リテハ如何サマ金科玉条デアアラフケレドモ實ニ「切り取り強盗武士ノ習ヒ」トイフ概念ノ現大語デハナイカ悲シイ哉、是レガ最モ有力ナル現代政治思潮デア、政治的社会的經濟的興味ニ目覺メタ尚□常ニ定マツテ社会ノ進歩的奉公ヲ代表スル我々青年ニ取ツテハ、カカル思潮ノ体験者タル所謂政治家所謂政者流ノ跳梁ハ正ニ正視スルニ堪エ難イモノガアル、此佐渡ニ於テ近クハ見ヨ、商船問題、女学校問題、銀行問題、或ハ頻々タル道路問題、是等ノ悉クガ、所謂政治的、所謂政者流ノ跳梁跋扈ヲ語ラズシテ何デア、人間ハ政治的動物デア、我々ハ先ヅ同憂相集ツテ此ニ一ツノ政治機關ヲ設置スル、佐渡政治界ノ見当批判ハ勿論ノコト所謂彼等政者流ノ跳梁ヲ牽制シヨウ、日ニ日ニ同憂ノ士ノ来リ投ゼンコトヲ眺望シテ止マナイ、肝胆相照スノ士ノ三百五百廳一千二千ノ数ニ達スルノモ程遠カラヌ事ト確信スル

#### 綱 領

- 一 建國ノ精神ニ則リ世界ノ大勢ニ順應スベキ國策ヲ樹立スル事
- 二 民衆的教育ノ振興ヲ図リ個性ヲ尊重シ人格ノ尊嚴ヲ確立シテ文化ノ向上ヲ期ス
- 三 労働ト分配ノ公正ヲ計リ階級闘争ノ悪弊ヲ矯正シ國民生活ノ安定ヲ期ス
- 四 綱紀ヲ肅正シ道德的國家ノ安定ヲ期ス
- 五 選挙権ヲ擴張シ輿論ノ貫徹ヲ期ス
- 六 党弊ヲ刷新シ立憲政治ノ徹底ヲ期ス
- 七 青年ノ政治的覚醒ヲ促シ大正維新ノ實現ヲ期ス

#### 役 員

- 幹 事 塚原徹、森守蔵、松榮俊三、本間久五郎、小池裕、石野琢磨、渡辺芳松、金子太津平、猪俣久三郎、金子三郎、田中貞作、本間汎、若林友吉、石田芳太郎、河口菊造、小池一、迎町猛、市橋太五郎、角坂仁三郎、浅野虎之助、中堀鬼市
- 評議員 高野貞二郎、中川喜一郎、渡辺暎、本間胎蔵、石川佐一郎、中川実、梶原元繁、若林甚三、星野千代治、奥田□□、本間雷蔵、岩原亨太郎、宇治政司、伊藤治一、今井勝治、
- 常任幹事 松瀬教五郎、塚原徹、森守蔵、本間久左衛門、

●政友本党の遊説 [十三年十月二日]

政友本党にては吉植庄一郎、木下謙次郎、植原悦二郎、中西六三郎等を派遣して佐渡に大遊説を試みんとするとの風評ありたりしに右の人々は来らざりしも、中林友信、寺田市正の両代議士は十三年十月二日午後六時 両津に上陸したるを以て兼て同所まで出迎ひ居りたる佐渡実農俱樂部統理 葛西肇、同幹事 石田芳太郎 の兩人は自動車を駆って河原田、新町を廻りて赤泊へ案内せしに外田幸吉、田辺政次、石塚一作其他の有志者に出迎へられて大井屋旅館に投宿し翌三日赤泊を振り出しに左の各地に政談演説会を開いた

三日午後一時より 赤泊 同午後七時より 羽茂

羽茂の演説会を終へて深更小木の喜八屋に投宿せしに同地有志者は演説会の要請ありたりしも佐渡の日程も已に定まり本郡終了後の予定もありしことゝて遂に其要求には應じなかつた

四日午後一時小木を出発し真野御陵を参拝して相川に入り高田屋に投宿した

午後七時より相川館にて政談演説会を催ふした

五日午前佐渡鑛山を見学し午後一時より河原田町に於ける佐渡実農俱樂部の秋季総会に臨席し閉会后同所に於て演説会を催ふし夫より

六日午後一時より 新穂開盛座 同七時より 両津橋本座

等の演説を終り 両代議士は七日午前の佐渡丸にて新潟へ渡航したが演題は寺田は「牽制の要義」中林は「政党的責任」にて在郡四日間至る処の演説会には聴衆も多く相当感動を興へたれば多大の収穫ありしものゝ様に見受けられども演説のやり放しにて入党を勧誘する者なかりし為めでありしか遂に本郡には政友本党は実現しなかつた

●佐渡実農俱樂部の秋期総會 [十三年十月四日]

佐渡実農俱樂部にては政友本党より中西六三郎等の本郡遊説の擧あるを好機とし秋季大会を開くべく準備を進めつゝありしに政界の情勢により中西は来らざりしも中林友信、寺田市正の両代議士来郡の通知ありたれば統理葛西肇 幹事石田芳太郎の兩人は十月三日両津埠頭に待ち受けて日割の予定ありしを以て直ちに赤泊村へ案内し赤泊、羽茂、相川等の演説会を了へ四日午後一時より河原田町の入江座に於ける同俱樂部の秋季総会に臨席を求め大会を閉じたる後同座にて政談会を催ふしたが惜しい哉 大会の模様を知ることゝ出来ねば追て掲ぐることをする

●河原田高等女学校の移転惜別会 [十三年十月四日]

縣立河原田高等女学校の新築工事は一部落成せるを以て相川に在りし同校は愈々河原田に移転することゝなりしを以て十三年十月四日午前九時より相川なる旧校舍屋内運動場に於て 来賓高木郡長、西山寿平次郡視学、須藤社会主事、渡辺相川町長、大西相川中学校長、柏倉一徳、岩木廣等四十名に職員生徒二百余名参列の上移転式を行ふ 関校長登壇して、河原田町なる本校舎新築第一期工事竣成の報告に引つづき

本校は町立相川実科高等女学校創立五十餘年校舍を新築し組織を変更して郡立となり校運は進み以て本郡女子教育の中堅ならんとするに至りたるは一は従来職員生徒努力の賜なりと雖も抑も亦相川町の苦辛計画後援の結晶に外ならず然るに今や此地を去らんとす誠に惜別の情に堪へず

との意味悲壯なる演説をなす、満場の者感嘆無量の情を現はし、渡辺、大西、柏倉、岩木等亦惜別の情を満身に罩め送別の辞を尽し将来の発展を熱望し之れにて式を閉じた

●河原田高等女学校の移転祝賀会 [十三年十月十二日]

相川町に設立し在る縣立河原田高等女学校は大正十一年十二月十四日夜の縣会に多数を以て河原田町へ移

転することに可決し以来要地の選定に数ヶ月を要し愈々河原田町浜通りに決定したるは十二年四月であつた 地元の河原田町は万難を排して新校舎の完成を期する為め一万余円の地元負担と要地々地均し工事の大責任を引受け工事に着手したのは十二年六月初旬であつた 尔来同町民は挙て努力奮闘の結果予想外の好成績を以て土盛工事を終へ茲に第一年の予定工事を完成し十三年十月四日目出度相川町の旧校舎より新築の現校舎へ職員生徒一同の移転を見た 此大業成就に際して河原田町では祝意を表すると共に全町民の労を犒ふため盛大なる祝賀会を催ふ事になった

青松白砂の地風光明媚な要地に魂然として建設された河原田高等女学校は十二年六月以来 十三年九月に至る実に十六ヶ月間は河原田町全町民の寄附労働によって要地々均し工事は完成された 此総坪数六千餘坪之れに要したる寄附労働の延人員実に一万七千有餘工である

十二日には移転開校の祝賀会は催ふされた午前八時第一号砲で役員集合し第二号砲で新校舎を開放して一般の縦覧は許可され同十一時より祝賀式に移った 町長中山直治の開会の挨拶、磯部亮造の要地工事報告、関校長、中山五兵衛等の祝辞演説あり 右終つて来賓一同に祝酒祝飯の饗応あり夫より余興にて小学校児童其他聯合の旗行列は午後一時より始まり雨天運動場には能楽、校庭には相撲及生花大会等あり 夜は全町提灯を吊し煙火を打揚げたれば参観の群衆は数千人にて希有の盛会であつた

昭和十八年十一月一日

(非売品)

新潟縣佐渡郡二宮村大字石田八十四番戸

著作兼印刷発行者

齋藤長三